

JAPIA NEWS

2018
1・2

隔月刊
(通巻723号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

「人材確保・育成に取り組む 自動車部品業界」

—技術系スタッフ・女性社員の採用が活発に—

会員企業紹介

アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社
(大阪市中央区)

年 頭 所 感

経済産業省 製造産業局自動車課長
河野 太志

北米事務所便り Vol.129

—「自動車の未来、ACES」—

YOROZU



サスペンションシステムを通じて新たな価値を生み出し、
“ヨロズブランドを世界に”

株式会社 ヨロズ

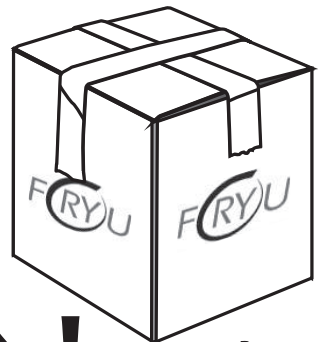
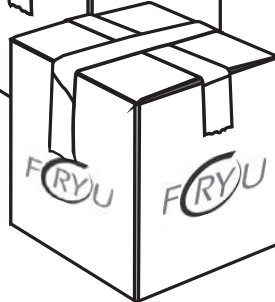
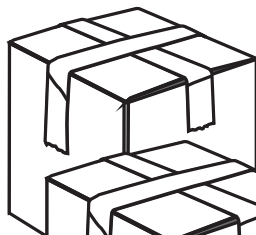
〒222-8560 神奈川県横浜市港北区樽町3-7-60

日本から中国へ、中国から日本へ、
航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス

最速



そしてチャーター便で世界へ！

日本→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc

中国→東南アジア、北中米、ヨーロッパ、中東 etc お任せ下さい。



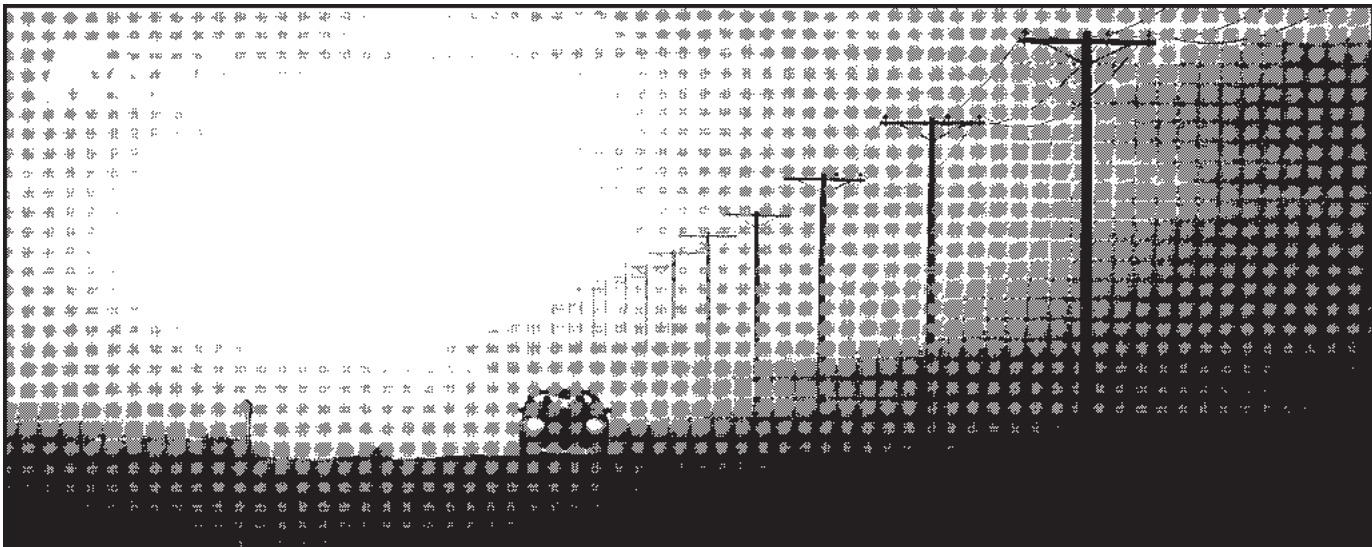
**安心、確実、丁寧な
ハンドキャリアで
皆様のご要望に答えます。**

日中間だけでなく世界中 あらゆる地域への
ハンドキャリアにも対応します。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : <http://foryouexpress.jp/>



フォーユーエクスプレス 検索



安全を光に託して

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木・上田・群馬
- ・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田・SOFI 課・海外課
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋
- ・刈谷・三重・大阪・広島・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ
(グアダラハラ・ケレタロ)・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	0772850	LRQA
	ISO/TS 16949:2009	IWATA BOLT USA, INC.	TS613385	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA, INC.	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01314	PERRY JOHNSON
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	C2015-01313	PERRY JOHNSON
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

「企業は人」
人材育成
 環境が変化しても
 長し続ける
 人材を育てる

人材育成制度

040 社

目標設定研修

098 回

評価者能力研修

567 回

昇格者選抜評価

160 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
 アイシン・エンジニアリング株式会社
 アイシン化工株式会社
 アイシン機工株式会社
 アイシン軽金属株式会社
 アイシン・コムクルーズ株式会社
 株式会社アイシン・コラボ
 アイシン精機株式会社
 アイシン辰栄株式会社
 アイシン高丘株式会社
 NTN 株式会社
 株式会社キャタラー
 埼玉工業株式会社
 株式会社ソミック石川
 津田工業株式会社
 株式会社デンソーエアシステムズ
 株式会社デンソーセールス
 デンソーテクノ株式会社
 トヨタ自動車株式会社
 株式会社豊田自動織機
 浜名湖電装株式会社
 浜名部品工業株式会社
 豊生プレーキ工業株式会社
 マブチモーター株式会社 他(50音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
 TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
 E-MAIL info@synergy-power.co.jp

社会問題に発展する前に

日本自動車研究所のISO審査で

自浄効果のある活動にしませんか？

<http://www.jari-rb.jp/jc>



一般財団法人日本自動車研究所 認証センター
JARI-RB



Technology for Goodness

ゴム・樹脂の高分子技術とLEDで
安全で環境にやさしく快適なクルマづくりに貢献

豊田合成

本社 / 〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地
<http://www.toyoda-gosei.co.jp/>

変わる、進む、未来を創る

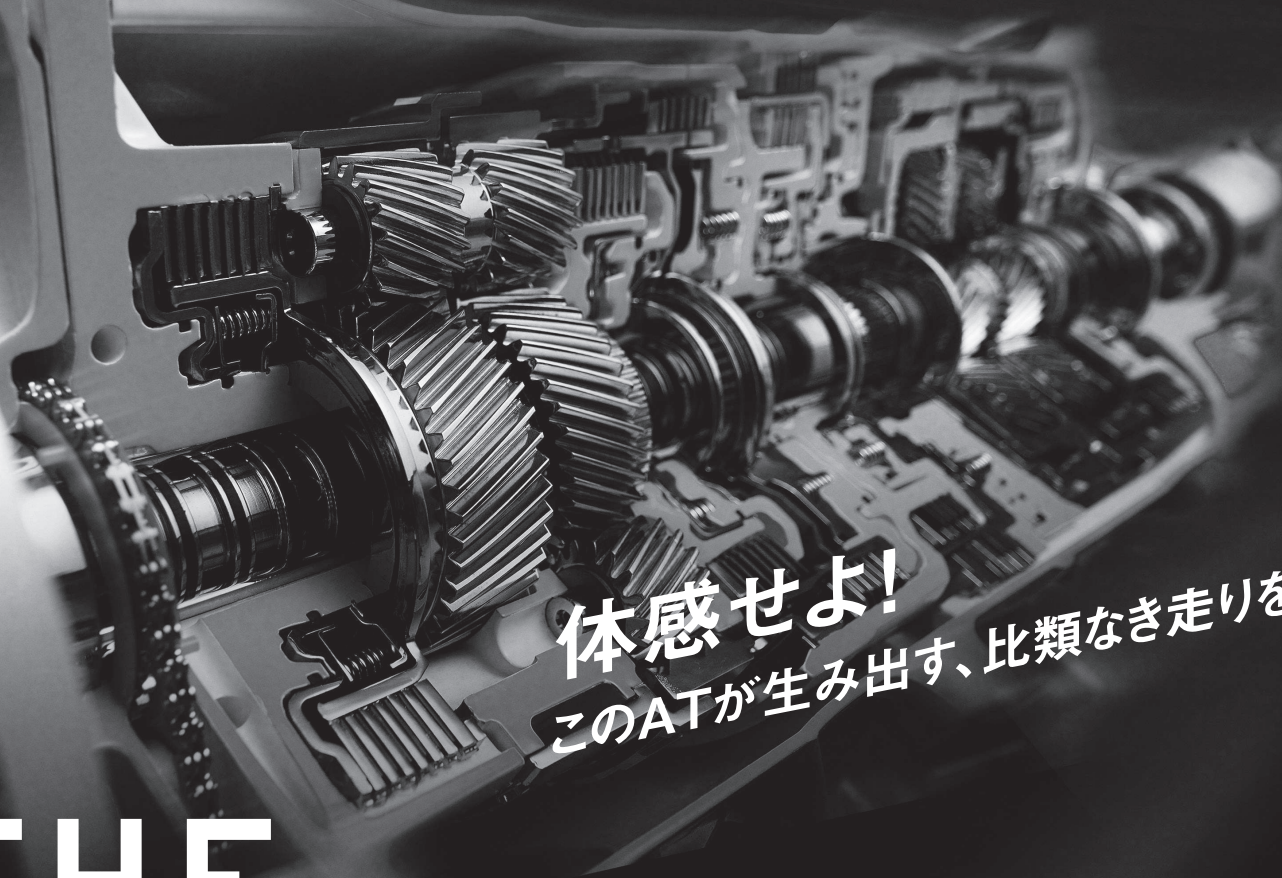


自動車部品事業/情報環境機器事業/外販設備、金型事業

フタバ産業株式会社

〒444-8558 愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地
TEL 0564-31-2211
URL <http://www.futabasangyo.com/>

 **AISIN GROUP**



体感せよ!
このATが生み出す、比類なき走りを。

**THE
ART OF
DRIVING**


AISIN AW

JAPIA NEWS

2018
1・2
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻723号)

目次

- 8 | 巻頭言・新年のご挨拶
会長 志藤 昭彦
- 10 | 年頭所感
経済産業省 製造産業局自動車課長 河野 太志
- 14 | **特集** 人材確保・育成に取り組む
自動車部品業界
- 20 | **会員企業紹介**
アップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社
(大阪市中央区)
- 22 | **連載 DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.19**
堅調な回復を続けるユーロ圏と減速する英国経済
日本政策投資銀行
- 24 | 工業会業務レポート・スケジュール
- 32 | 支部活動レポート
中部支部視察報告 中小企業部会
- 34 | 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 37 | 北米事務所だより Vol.129
―「自動車の未来、ACES」―
- 38 | 指標・統計

平成30年1月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

自動車産業界の為の
IATF16949セミナーは… www.lapj.co.jp まで

謹んで新春のお慶びを申し上げます

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます
平成30年元旦

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

巻頭言

Introduction

新年のご挨拶



一般社団法人日本自動車部品工業会
会長・志藤 昭彦

[株式会社ヨロズ 代表取締役会長]

会員企業の皆様、明けましておめでとうございます。

新しい年の始めにあたり、ご挨拶申し上げます

2017年の国内景気は、総じて緩やかに持ち直し、堅調な企業収益や人手不足を背景に雇用所得環境が良好の中、個人消費も緩やかに回復しました。

2017年度の自動車部品業界での企業業績の見通しも堅調に推移すると見られていますが、上期に比べると下期は厳しい見方をしていましたが、その通りになってきております。これは、日本及びアジアでは引き続き好調な販売は期待されますが、米国での新車販売台数の減少懸念、特に乗用車の販売が減少していることが、今後も続くという懸念に加え、米国の政治リスク等により、保守的な見通しになっています。

2018年の国内自動車市場の見通しは、商用車排ガス規制厳格化前の駆け込み需要の反動もあり、2017年の好調は一段落し、やや販売が減少するものと見られています。中長期的にみても人口減少や高齢化、若者のクルマ離れ、買い替えサイクルの長期化という傾向は変わらないため、市場は緩やかに縮小し続けると思われます。世界自動車市場においては、日本、米国市場における新車販売の減少が続く中で、急成長を続

けるインド・南米と、安定的な成長を持続している中国が世界市場を牽引することで補われ、全体では2017年から微増するものと見られています。

2017年は、第45回東京モーターショーが開催されました。世界的に電動化や自動運転の技術開発競争が激化する中、モーターショーではEVや自動運転が注目され、自動車メーカー、部品メーカーともその潮流に沿った展示や発表を行ってまいりました。未来のモビリティを想定した各社の開発動向の一端を伺うことが出来たのではないのでしょうか。

自動車産業における構造変化と対応において、電動化等多様なパワートレインの次世代自動車や自動走行技術の開発と共に、軽量化や環境への配慮等を含めた技術革新に関して、自動車部品は極めて高い品質と信頼性が求められ、自動車部品メーカーに求められる役割の重要性が更に増してくると考えられます。独自要素技術を企業の軸として、社内革命や新たな開発の種まきが必要になってくると思われます。

2017年3月に策定し公表した、「取引適正化の推進と生産性・付加価値向上に向けた自主行動計画」について、本年も重点活動と位置付け、取り組みを進めてま

います。部工会会員企業は、業界、企業規模、取扱品目、取引上の位置付け等多種多様ではありますが、自動車産業においてサプライチェーンの中流に位置する重要な役割を果たすと共に、自動車産業全体の取り組みとして、今後とも自社の実態を踏まえ、3つの重点課題（「合理的な価格決定」「型管理の適正化」「下請代金支払いの適正化」）について、着実に実践していくことで、サプライチェーン全体での取引適正化に向けた取り組みを進めてまいります。

自動車業界は、電動化・知能化・情報化により自動車産業構造の転換期を迎え、大改革時代に入りました。取り巻く環境は、情勢不安等先行き不透明な要因も多くあり、経済情勢や環境の変化に対しては、慎重な舵取りが求められてきます。当工業会といたしましても、今後も引き続き会員企業の皆様への情報提供・各種サポート、関係団体との調整、政府・関係省庁への働きかけなどを行い、会員企業の皆様と一緒に自動車部品業界の発展に努力していく所存でございます。

最後になりますが、今年一年が会員企業の皆様にとり、充実した一年になることを祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成30年

年頭所感

経済産業省
製造産業局自動車課長

河野 太志



平成30年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権が発足して5年、名目GDPは50兆円増え、企業収益は過去最高水準を記録しています。さらに、雇用は185万人に拡大し、高水準の賃上げが4年連続で達成されるなど、雇用・所得環境の改善が続いており、日本経済の好循環は着実に回り始めています。

自動車産業に目を向ければ、国内の需要面では、新車販売台数が2016年度は2年ぶりに500万台に回復したことに加え、2017年度を通じた累計台数も対前年比増となりました。また、供給面で見ると、国内生産は、2016年11月から連続して前年同月比でプラス成長となっており、堅調を維持しております。好調な国内生産は自動車産業のみならず、工作機械を始めとする機械受注を継続的に増加させるなど、周辺産業にも好影響を与えております。現に自動車関連の設備投資などを背景に、日銀の短観においても製造業全体の景気判断が5期連続で改善しております。

日本経済の好循環を更に力強く持続させるためには、国内の自動車販売市場の活性

化と、自動車関連民間設備投資の拡大が不可欠です。日本の自動車産業が引き続き世界をリードしていけるよう、皆様方の御協力を得ながら、政府として全力をあげて対応してまいります。

第一に、世界的に自動車産業が直面している、電動化や自動化などの大きな波を、イノベーションを生み出すための「攻めの機会」ととらえ、施策を総動員して対応してまいります。

まず、世界において急激に電動化の波が押し寄せつつある中で、我が国が引き続き世界最先端の次世代車立国として世界をリードしていくために、充電インフラ・水素ステーション整備や車両の一部購入補助といった国内市場の活性化に向けた支援はもちろんのこと、電気自動車の性能向上の鍵を握る車載用電池の競争力強化に向けた全固体電池等の研究開発や、モデルベースの活用による開発行程の効率化への支援など、より一歩踏み込んだ次世代自動車戦略を推進してまいります。

次に、IT企業の市場参入など世界規模で競争が激化する自動走行の分野においては、世界に先駆けた自動走行を活用した新

たなビジネスの事業化を目指します。昨年末には、過疎地域などにおける新しい交通サービスの確立に向け、世界初となる公道での無人車両の走行実証をいよいよ開始しました。さらに、物流における深刻なドライバー不足の解決に向け、先頭車両を後続車両が追従するトラック隊列走行の実証を本年1月から開始する予定です。加えて、多額の研究開発費がかかる自動走行分野における日本全体のリソース不足を克服するため、企業が協同して取り組む協調領域における取組を積極的に支援しております。例えば、自動走行実現の基盤となる高精度3次元地図の実用化支援や自動走行システムの安全性評価の枠組みづくり、最低限確保すべきセキュリティ水準の設定、自動車開発の基盤となるソフトウェア人材の育成などを積極的に推進してまいります。同時に、足下では、自動ブレーキ等の先進的な安全支援技術を搭載した「安全運転サポート車」いわゆる「サポカー」の普及を推進してまいります。国内外の動向を注視しつつ、皆様の御協力をいただきながら官民一丸となって施策を進めてまいります。

第二に、更なる消費喚起と国内雇用・生産基盤の維持・強化の鍵となる国内市場の活性化に関しては、自動車ユーザーの税負担の更なる軽減に向けて尽力してまいります。「平成31年度税制改正までに、自動車の保有に係る税負担の軽減に関し総合的な検討を行い、必要な措置を講ずる」旨、明記されている平成29年度与党税制改正大綱に基づいて、平成31年度税制改正に向け、総合的な検討を進めてまいります。

第三に、世界において保護主義の動きが広がる懸念がある中、グローバルに展開する自動車産業にとって、自由で公正な経済圏の推進は非常に重要な課題です。昨年12月には、日EU・EPAが4年に渡る交渉の末に妥結に至り、協定発効後には乗用車の関税が8年目に撤廃、大型二輪車の関税は4年目に撤廃されることになるなど、非常に大きな成果を得ることができました。また、11カ国による環太平洋パートナーシップ協定（TPP11）についても、米国の離脱表明後の苦しい状況下、日本が「自由貿易の旗手」として存在感を示し、大筋合意を実現することができました。一日でも早く、これら大型の経済連携協定の利益を享受できるよう、可能な限り早期の署名・発効を目指すとともに、各国・地域との更なる連携強化を図ります。

第四に、下請取引の適正化に向けた取組については、一昨年に取りまとめ公表した「未来志向型の取引慣行に向けて」に基づき、自動車業界におかれましては、昨年3月に他の業種に先駆けて「自主行動計画」を策定いただきました。昨年末のフォローアップアンケートの集計結果によれば、型管理や下請代金支払いの適正化など成果が出始めております。部品産業を含めた自動車業界全体の競争力を強化するという観点から、こういった動きをさらに波及させるべく、取引適正化と付加価値向上に向けた取組をしっかりと進めてまいります。

最後になりますが、本年の皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

新春のお慶びを 申し上げます

株式会社ヨロズ

代表取締役会長

志藤 昭彦

株式会社アステア

代表取締役会長

水松 幹夫

KYB株式会社

代表取締役社長執行役員

中島 康輔

竹内工業株式会社

取締役社長

竹内 政雄

パシフィック工業株式会社

代表取締役社長

長安 純

朝日電装株式会社

代表取締役社長

手嶋 寛征

大野ゴム工業株式会社

代表取締役社長

大野 洋一

ダイヤモンド電機株式会社

代表取締役社長CEO兼グループCEO

小野 有理

日本発条株式会社

代表取締役会長

玉村 和己
茅本 隆司

株式会社浅野齒車工作所

取締役社長

倉長 勇太郎

株式会社エフテック

代表取締役社長

福田 祐一

太平洋工業株式会社

代表取締役社長

小川 信也

日本特殊陶業株式会社

代表取締役会長兼社長

尾堂 真一

曙ブレーキ工業株式会社

代表取締役社長

信元 久隆

NTN株式会社

代表取締役社長

大久保 博司

制研化学工業株式会社

代表取締役社長

前川 幸生

日本精工株式会社

取締役代表執行役社長CEO

内山 俊弘

株式会社青山製作所

代表取締役社長

青山 幸義

NOK株式会社

代表取締役会長兼社長

鶴 正登

住友電装株式会社

代表取締役執行役員社長

川井 文義

日鍛バルブ株式会社

代表取締役社長

金原 利道

愛三工業株式会社

代表取締役社長

小林 信雄

HKT株式会社

代表取締役社長

山崎 正男

株式会社杉浦製作所

代表取締役社長

杉浦 明博

日新工業株式会社

代表取締役

松下 芳博

豊田合成株式会社 代表取締役会長 荒島 正	株式会社小糸製作所 代表取締役会長 大嶽 昌宏	大東プレス工業株式会社 代表取締役会長 吉田 多佳志	大同メタル工業株式会社 代表取締役会長 兼最高経営責任者 判治 誠吾	プレス工業株式会社 代表取締役社長 角堂 博茂	株式会社リケン 代表取締役会長兼CEO 岡野 教忠
エイケン工業株式会社 代表取締役社長 早馬 義光	イワタボルト株式会社 代表取締役社長 岩田 聖隆	株式会社今仙電機製作所 代表取締役会長 代表取締役社長 若山 恭二 足立 隆	株式会社アーレスティ 代表取締役社長 高橋 新	アルパイン株式会社 代表取締役社長 米谷 信彦	株式会社荒井製作所 代表取締役社長 山中 新一
しげる工業株式会社 代表取締役社長 正田 敦郎	株式会社ジエイテクト 取締役社長 安形 哲夫	三和パッキング工業株式会社 代表取締役社長 宮川 博至	三輪精機株式会社 代表取締役社長 西海 栄一	株式会社小林製作所 代表取締役社長 坂巻 國男	小島プレス工業株式会社 取締役社長 小島洋一郎
株式会社ニチリン 代表取締役社長執行役員 前田 龍一	トヨタ紡織株式会社 取締役社長 石井 克政	東海マテリアル株式会社 代表取締役社長 菊地 一秀	株式会社デンソー 取締役社長 有馬 浩二	TPR株式会社 代表取締役社長兼COO 岸 雅伸	株式会社榎屋 取締役社長 大原 鉾一
株式会社ワイピーシステム 代表取締役 吉田 英夫	ユニプレス株式会社 代表取締役社長執行役員 吉澤 正信	矢崎総業株式会社 代表取締役社長 矢崎 信二	マルヤス工業株式会社 代表取締役会長 山田 隆雄	株式会社ボンフォーム 代表取締役会長 西脇 保彦	富士部品工業株式会社 代表取締役社長 松崎 友康

特集

人材確保・育成に取り組む 自動車部品業界

自動車業界では技術系を中心に新卒者採用を増やす動きが強まっている。自動運転や電気自動車（EV）など新領域の開発力強化に対応するもので、少子高齢化で学生の数自体が減少する中、自動車メーカーも含めた人材獲得競争は激化している。2018年度（18年春入社）は「バブル期以上」との声もあるほど売り手市場になった。19年度も同様の傾向が続く見通しだ。部品メーカーでは優秀な人材の確保に向けた採用活動の充実化とともに、定着率向上のための育成プランや女性が活躍できる職場づくりなどが重要課題となっている。

部品メーカーでは技術系の採用を増やす動きが顕著に

日刊自動車新聞社は、17年10月に部品メーカーの18年度新卒採用状況（18年春入社見込み）の調査を実施した。100社以上の上場部品メーカーを対象に依頼し、98社から回答を得た。17年度との比較が可能な73社の新卒内定者は6086人で、17年度入社実績の6092人と同水準だった。（表参照）

部品メーカーの採用内定者（73社ベース）

	2018年度		2017年度 実績
	当初計画	内定	
事務	817	847	899
技術	2,784	2,717	2,614
技能	2,541	2,388	2,433
合計	6,265	6,086	6,092

単位：人。合計はその他の職種を含む

内訳は、大卒理工系および高専卒など技術系が17年度入社実績比3・9%増の2717人だが、大卒事務系は同5・8%減の847人、高卒の技能系は同1・8%減の2388人と落ち込んだ。採用を増やしたのは32社、募集開始前の採用人数を確保できた企業数も35社にとどまり、5割以上が計画未達に終わるなど厳しい状況となった。自動運転や電動化、コネクテッドなど自動車業界のメガトレンドに向けた開発力強化を図るべく、各社が技術系の新卒採用に重点を置く動きが浮き彫りとなった。

前年度に続き売り手市場が想定されただけに、インターンシップや業界研究会を通じた学生との接触機会を増やすとともに、内定者懇談会の開催による引き留

めにも力を入れたようだ。19年度は18年度と同規模の採用を計画する企業が多い。ターゲットに高専卒者や理系女子、外国籍を加えるなど対象を拡大する動きも顕在化している。例年以上に企業側からの積極的な仕掛けがカギを握ることになりそうだ。

採用活動を強化する NOKグループ

NOKはグループ6社で新卒者を一括採用している。採用活動の効率化が目的だが、グループ全体の事業内容を説明できるだけでなく、スケールメリットも打ち出せる。近年の採用者数は200人程度だ。今期（18年春入社）は例年よりインターンシップに力を入れた。同プログラムは、近年「感触が良かったため拡大した」（人材企画部・福間博文部長）。CMを打たないNOKにとって学生に仕事への理解を深めてもらう有効な機会となっている。

NOKは学生が志望するきっかけとなるリクルーターに重点を置く。売上高などはインターネットで調べられるが、事業

内容や働くフィールドは伝わりにくいからだ。最近では「入社後に成長させてくれる会社かどうかを学生が重視していると感じる」（同）という。働きがいや生きがいを得られるかについて、学生と向き合って話すように心がけている。今期は売り手市場と言われたが、来期もより厳しくなると予想されている。この対策として自動車メーカーにはない魅力をPRする方針だ。例えば、NOKには要素技術があることを訴える。「要素技術を突き詰めるのが好きな学生は部品メーカーの方が合っているはず」（同）と分析する。

NOKには真面目に働いて社会や会社に貢献したいと思う学生が多く集まるという。会社も従業員を大事にすることがポリシーだ。両者の方向性が合っているため離職率も低い。来期の採用活動ではインターンシップとリクルーター活動に力を入れていく予定だ。施策自体は大きく変えない。来期の採用数は近年の状況に準ずる見通しだ。

新たな人材育成プログラムを導入

NOKでは3年前に新入社員教育プログラムを全面的に改定した。最近の学生は学問的な能力は高いが、マインド的に幼い面も見られたからだ。「会社のビジネス内容や制度・仕組みを知ってください」というものから「働くとは？」というマインドセットを重視するよう変えた。新入社員研修後に生産研修を行うが、ここ数年はあいさつがよくできると現場社



NOKの福間博文人材企画部長

員の評判もよい。「知識としてではなく、マインドとして与えると一生ものになる」(同)というプログラム改定効果の一例だ。

今年は人材育成プログラムを文書で明確にし、社内展開した。従来はOJTで教えてきたが、好景気と残業規制などで先輩社員の手が回らなくなったため、同プログラムを構築した。3年の助走期間を経て実施したプログラムは階層別教育と専門教育の二つ。階層別は新入社員教育から執行役員研修まで社歴や役職の各段階で行う。専門はOJTをベースに体系化したものを冊子にまとめ、どこの部門がどんな教育をしているのかを見える化した。グローバル人材育成や出向前研修なども新設している。以前は現場任せの教育だったが、人材企画部の立ち上げとともに共通プログラム化して運用を始めた。女性や再雇用者の活躍なども専門教育に組み込んだ。

今後も採用活動は従来のやり方を時代の要求を取り入れながらも愚直に推進する。NOKのポリシーの「人間尊重」のもと、良い部分を伝え続け、採用に結び付ける構えだ。

女性社員の活躍の場を広げる丹心工業

丹心工業（愛川二郎社長、静岡県湖西市）は、ワイヤーハーネス（W / H）の組み立てに必要なボードに組み付ける治具を開発・製造する矢崎総業のグループ会社。従業員約100人の

うち、女性社員の比率は約7割を占める。扱う治具は大きくないため、設計から製造まで女性社員が活躍できる領域は幅広い。矢崎グループの社会発展に貢献するという基本的な考えのもと、雇用創出の面でも地域社会に貢献している。

ここで女性社員が従事する業務は、自動車メーカーの設計変更に合わせて新旧の図面を比較し、追加されたコネクタやクランプなどの部品を特定し、変更点を図面へ追記する「設計業務」や、新しい部品のための治具設計の仕様書作成、試作、デザインレビューを経て量産用の治具を準備する「部品開発業務」などだ。

CADを用いたレイアウト設計も女性社員が担当しているが、入社の際にはほぼ全員がCADの未経験者。入社後の研修と実務を通して先輩に教えてもらいながら技術を習得するという。治具設計の仕様書からの部品情報をもとに、組み立てボードの原寸に合わせW / Hのレイアウト図を起こし、治具の端末や構成部品などの座標を描きこみ、取り付け寸法が保証されるように配置していく。近年は自



丹心工業・本社外観

動車の電装化が進んでいるだけに、電線の本数が多い密集部でもスムーズにW / Hを組み立てられるようにレイアウトするのが腕の見せ所だ。

CADレイアウト終了後は、座標データをもとに自動で組み立てボードに穴を開け、治具が取り付けられる。治具部品の組立て作業でも女性社員が活躍する。この作業は浜名特別支援学校の実習にも提供している。「生徒への指導も女性ならではの配慮が喜ばれている」（愛川社長）という。

また、彼女たちはW / H工場からの受注や納期調整などの生産管理や、サプライヤーへの受発注などの購買業務、さらには1万数千点以上に及ぶ治具の入出庫や在庫管理にも大きな役割を果たしている。治具は、国内には組み立てボードに部品を取り付けた完成品の状態で発送するが、海外には図面と部品だけを送り、現地で組み立てる。輸出のための梱包も女性社員が行っている。

女性社員による改善提案で業務効率化を実現

このように、同社では女性社員がとても重要な役割を担っている。それだけに同社では女性社員が活躍できる職場づくりのため、さまざまな工夫をしている。CAD設計でのマニュアル作成は短時間で仕事を覚えるのに役立ち、提案制度は業務時間の短縮や品質向上につながっている。報奨金制度も設けた。公正な評価と本人の意見も確認しながら女性管理者も

登用している。女性同士のコミュニケーションも活発で、子育てで忙しい女性社員の仕事を助け合うなど良好な関係が生まれている。トイレの増設など設備面も配慮した。さらには、家庭と仕事を両立するワークライフバランスのセミナーも実施するなど自主性の教育にも力を入れている。

これらの活動に本腰を入れたのは愛川社長が就任した15年。「一般の主婦でも責任感を持ち、小さな改善を積み重ねることで業務効率化ができることを実感している」（同）業務改善定例会では設計の基準化など、これまでに女性社員による49件の改善案が採用された。

現在、この地域での就職希望は女性が多いとのこと。給与面や新しいことへの挑戦という動機のほかに、「子供ができて仕事が続けられるという理由で選んでいる」（同）という。地元の湖西市が行う女性活躍推進事業への支援も積極化している。重点課題は産休で職場を離れる女性社員の仕事を補完するための業務の合理化と簡素化だ。愛川社長は「今後、素人でも作業できる仕組みづくり、そして多能工化の強化に特に力を注いでいく」



丹心工業の愛川二郎社長



トノックスは多能工の育成を進めている（写真は塗装の実地教育）

と語る。

多能工化を進めるトノックス

車体架装業界でも人材育成は重要な経営課題となっている。軽自動車から大型トラックまでの架装を手がけるトノックス（殿内荘太郎社長、神奈川県平塚市）は11年から多能工の育成を本格化した。きっかけは自動車メーカーからの受託生産台数の減少だった。人材に限られる中、さまざまな作業ができる多能工化を進めることで柔軟な生産体制を構築し、落ち込みをカバーすることを目指した。

育成方法は、まず組立や溶接、塗装、艤装などの作業スキルについて、各スタッフが未経験なものを1種類ずつ1年単位で習得する。一つ覚えると次の技術というように、幅広い分野の作業をこなせるように養成した。ただ、習熟過程では各スタッフの適性を見て、多能工向きかどうかを判断して配置を決めるようにしている。教育システムの制

度化と人事管理体制の徹底により、作業員一人ひとりの習熟度が高まるとともに、円滑に仕事ができる職場づくりにもつながったという。数年かけて取り組んだ成果はすでに形となっている。工場全体で向上した技術力が評価され、アルミ部材を大量に使用する防衛関連の車両架装を受注した。

現在210人いる製造スタッフのうち、鉄とアルミの両方を溶接できる人材を30人育てるなど、多能工を増やしてきた。今後も一層教育体制を拡充しながら多能工を育成し、効率的な生産と作業員の活躍機会の拡大につなげる。

整備技術の伝承に取り組む JALエンジニアリング

人材育成に力を入れるのは異業種でも同じだ。日本航空（JAL）の整備業務を担うJALエンジニアリングは、航空機と人がお互いを育てる「機財」を掲げる。



JALエンジニアリングのドック整備（重整備）の様子

背景には機体の小型化や海外航空会社の乗り入れで整備が必要な機体の数が増え、整備士の獲得競争が激化していることがある。同社はベテラン整備士から学ぶ機会を設けるなど、利用者が安心できるJALらしい航空機の提供を通じ、世界中で一番に選ばれるエアライングループの実現を目指している。

航空整備士の作業は到着から出発までに機体の外部点検を行うライン整備（運行整備）と、1～2カ月を要するドック整備（重整備）がある。「ライン確認主任者」という社内資格を持つ整備士は現場責任者として、作業者の安全への配慮や定刻での出発に向けたパイロットや客室乗務員との調整能力が求められる。高い技術

力が必要な現場では先輩の知識や技量を若手整備士に継承することが大切だ。10年には「整備マイスター制度」を設け、整備士の専門性を明確化した。整備経験が12年以上の整備士を技術だけでなく技術伝承のための遂行力や問題解決力により3段階で評価する。同制度を若手整備士の育成に活用している。

現在、社員4千人のうち女性比率は約3%。ダイバーシティの推進や女性社員の活躍などを就職説明会でアピールしている。男性社会のイメージが強いが、志す女性の意識は高いという。育児休職から復帰する女性も多く、定着率が高い。

JAPIAニュースでは、より多くの皆様に読んでいただくため、これまで以上に特集記事のバリエーションを広げていきます。1次サプライヤーに限らず、中小企業を中心とする2次、3次サプライヤーにも積極的な取材を進めていく方針です。日本が得意としている「ものづくり」の現場に耳を傾け、読者の方々の参考になるような誌面作りを目指します。2018年のJAPIAニュースにも是非ご注目ください。

赤ちゃんの良い環境を 追求し続ける

「赤ちゃんの未熟性を守る」を第一に

前田英広社長



会社プロフィール



本社

本 資 本 金	本 業 員	社 金	大阪府大阪市中央区島之内1-13-13
資 本 金	業 員	員	非公表
産 生 代	産 生 代	点 者	180人（国内のみ）
			中国・自社工場（広東省中山市）、協力工場など
			職務執行者 前田英広

「良い環境」を赤ちゃんに

チャイルドシートなどのベビー用品を製造・販売するアップリカ・チルドレンズプロダクツ合同会社。今年で創業70周年を迎える同社は、創業当時から「赤ちゃんの健やかで穏やかな成長を支え、未熟性を保護する製品づくり」を貫く。20年前に国内初となるベッド型のチャイルドシート「マシュマロシート&ベッド」を独自で開発・販売して以来、チャイルドシートは同社の主力商品となった。赤ちゃんにとって居心地の良い体勢を実現し、安全性を追求した商品で、ユーザーから大きな支持を得ている。腹式呼吸をする新生児にとって、呼吸のしやすい仰向けの姿勢を実現したチャイルドシートだ。

同社は、高い安全性も追求する。赤ちゃんが寝るベッド部分を進行方向に対して横向きにすることで、衝突時の衝撃を分散する。さらにヘッドサポートでまだすわっていない頭や首を支え、事故の影響を抑える。実際に事故を経験したユーザーから「アップリカ製品のおかげで赤ちゃんの命が助かった」と手紙をもらうこともあるという。



衝突実験の様子

いち早く研究所を導入

2001年には、チャイルドシートの衝撃実験を行うアップリカ中央研究所を奈良市に設立。国内のベビー用品を製造する企業の中でも、いち早く自社の研究開発センターを導入した。ここでは、医学的・科学的に赤ちゃんの体の構造を研究する。新生児も使えるように、出生時の平均体重とされる2.5キログラムのダミー人形を独自で作製した。手足や首関節が動き、内蔵センサーで、衝突時にどの部分に負担がかかるのかなどを細かく研究する。シート内で手足をどのように動かすのか、どの部分で指を挟んでしまうのか、肌があた

る部分はどこかなど、あらゆる可能性を想定し、分析する。チャイルドシート1個を開発するだけでも、長期間かかる場合もあり、衝突実験は数多く繰り返す。前田英広社長は「チャイルドシートは高額な商品だが、研究にかなりの時間をかけている。当社の製品のこだわりをユーザーに自信を持って説明することができる」と語った。



独自開発の
2.5kgのダミー人形

同社は、ベビーカーについては、日本の製品安全基準である「SG規格」だけでなくヨーロッパの製品安全規格「EN規格」も製品開発の際に参考に取り入れている。耐久試験の時間など、厳しい基準を設け、高品質の製品開発を実現している。

装着率100%を目指して

日本のチャイルドシートの装着率は約65%と言われている。一方で、クルマ社会の米国では95%近くとなっている。日本では、近年の交通事故報道で安全に対する意識が高まっているものの、子どもに対してのリスクがどれだけあるのかの認識が薄い。現在は、シートベルトを使わずに、チャイルドシートを固定する「ISOFIX（アイソフィックス）」に対応した商品も増えている。チャイルドシートのコネクターをISOFIXのバーに差し込むだけで装着が完了となる。同社もI

S O F I X対応の商品を販売する。シートベルトでの固定時に多い、付け間違いによる事故の削減にもつながる。前田社長は「装着率をあげるには、使いやすさが非常に重要。徐々に100%に近づけていきたい」と語った。



ISOFIX対応の
「フラディアグロウ」

ライフスタイルに合った商品提供

近年、東京や大阪などの大都市では車を持つ家庭が少なくなり、カーシェアリングが主流になりつつある。一方で、車が生活の必需品となる地方では、一家につき2台以上の保有が当たり前になっている。地域の特性からチャイルドシートの必要性を考える。海外でも、主要都市だけを視察するのではなく、地方にも足を運び、その地の生活を実際に見ることを心がける。

子育てに参加する男性が増えている。一方で、女性のカーユーザーも増加傾向にある。購入者や用途、使う車に合わせた商品開発を引き続き進めるとともに、ベビー用品の製造・販売だけに留まらず、国や関係各所と協力して育児しやすい環境づくりにも貢献していく。



アフリカ中央研究所

堅調な回復を続けるユーロ圏と 減速する英国経済 各国政治リスクの相乗的な拡大に留意

ユーロ圏の2017年7～9月期の実質GDPは前期比年率2.4%増と、4四半期連続で2%を上回るペースで景気回復が続いている。欧州債務危機が一服し、上昇した失業率が低下基調にある中、労働市場の改善が消費に好影響を及ぼしているほか、欧州中央銀行（ECB）が大規模な金融緩和を続ける中、低金利やユーロ安も設備投資、輸出の増加につながっている。

他方、英国では、EU離脱（以下、Brexit）が決まった16年6月の国民投票以降、景気は持ちこたえていたが、17年に入り成長率は1%程度まで鈍化しており、景気減速が鮮明になっている。この背景にあるのは急激な物価上昇である。Brexit決定後のポンド安進行で、輸入価格が急上昇し、消費者物価の伸びは前年比で3%まで達している。これが実質賃金の下押し圧力となり、消費に悪影響を及ぼし、経済を下押ししている。

またBrexitの影響は消費以外にも移民流入や投資など多方面にみられる。移民については、EU離脱の国民投票実施に至った背景に、英国への移民増加に対する社会的な不満があったことが指摘されている。英国では、国民投票実施後もまだ移民政策の見直しには至っていないが、EUからの移民流入数は、17年3月までの1年間で24.8万人と、Brexit決定前（16年3月までの1年間で26.7万人）から減少している。特に求職目的の移民流入が減っており、過去に流入した移民が大陸欧州に引き揚げる動きも広がっ

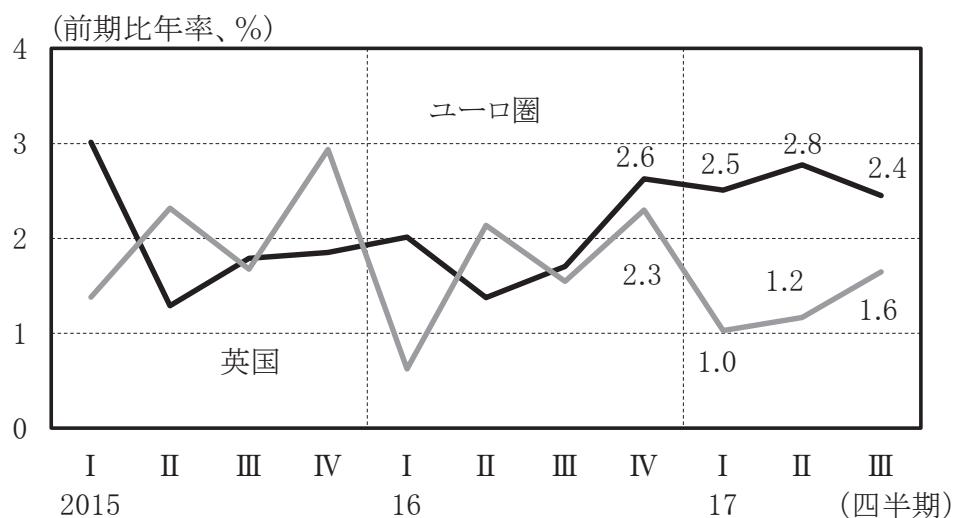
ている。

また英国の住宅価格についても伸びの鈍化が鮮明となっている。英国家統計局が公表する住宅価格指数は、Brexit決定前は前年比で10%近くの伸びがあったが、17年9月時点で5%程度まで鈍化している。この背景には16年4月からの不動産投資に対する土地印紙税の引き上げの影響が指摘されているが、Brexitによる先行き不透明感が住宅投資を下押しした可能性も考えられる。

このようにユーロ圏と英国では、経済の状況に明確なコントラストがみてとれるが、金融政策においても両者の立ち位置は対照的である。ユーロ圏では、ECBが量的緩和政策として、17年末まで月額600億ユーロの資産買入を実施していたが、景気が堅調に推移する中、18年以降は、その規模を月額300億ユーロに半減させている。量的緩和は9月末まで実施される予定であり、以降は経済の状況に応じて、さらなる延長や規模の再拡大もありうるとしているが、市場ではそのまま量的緩和が終了するとの見方も多い。

対して、イングランド銀行（BOE）も17年11月の金融政策委員会で政策金利を0.25%から0.50%に引き上げることを決定した。ECB、BOEの直近の政策変更はいずれも金融引き締めであるが、両者の意味合いは全く異なる。前述したように、英国の景気減速の主因は、インフレ率の上昇であり、BOEの利上げは元凶であ

図 ユーロ圏と英国の実質GDP成長率



(備考) Eurostat より DBJ 作成

る物価高を抑制することを目的としている。一方で金利の引き上げは、減速する経済のさらなる下押し圧力となるため、利上げという選択はBOEにとっては苦肉の策であった。このような背景があるため、市場ではBOEの利上げはこの一回にとどまり、当面は景気や物価動向を見極め、静観を続けるとの見方が多い。

主要国際機関の見通しでは、先行きの英国経済は、引き続きEUとの離脱交渉の不透明感が重しとなり、18年も景気減速が続くとの見方が多い。EU離脱交渉については、17年3月に英国がEUに離脱を通知して以降、6月から協議が開始されているが、離脱時に英国がEUに支払う清算金の額について、両者の隔たりが大きく時間を要したこともあり、肝となる通商交渉の協議が進んでいないのが現状である。交渉の期限は離脱通知から2年後の19年3月であるが、その前に各国議会での承認手続きに半年程度を要するとみられ、実質的な期限は18年10月ごろと言われている。実質的な交渉期間はすでに1年を切っており、その間に複雑な通商交渉の細目で合意していくことは非常にハードルが高い。

他方、ユーロ圏の先行きについては、ECBに

よる金融緩和縮小の影響はあるものの、2%前後の成長率が続くとの楽観的な見方が多い。ただし、ユーロ圏の各国でも政治リスクが山積しており、留意が必要となる。特にドイツでは、17年9月の議会選で、移民受入政策への不満などからメルケル首相の与党キリスト教民主・社会同盟が第一党を維持するも、議席を大きく減らしており、今後のメルケル首相の求心力低下は避けられない。これまでのドイツの南欧支援や移民政策などにも大きな変化が生じる可能性がある。

スペインでも17年10月のカタルーニャ州独立を巡る住民投票以降、中央政府と州政府の対立が続いており、英国のスコットランド独立問題の再燃など、各国の民族主義の刺激につながる懸念が指摘されている。またイタリアでは18年5月までに実施予定の議会選において、反EUを掲げる政党の躍進が予想されており、反EUや保護主義の機運が再び欧州に広がる恐れがある。このように、欧州各国で様々な政治リスクが存在することに加え、結果次第で影響が他の国に相乗的に拡大し、金融市場を通じて経済を下押しする可能性があり、留意が必要となる。

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月19日 正副会長等打合せ会、理事会 平成29年度上半期事業報告、決算他 八芳園
- 12月15日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員長報告 名古屋東急ホテル

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月25日 正副会長等打合せ会、政策委員会 各委員会事業評価 経団連会館
- 2月9日 政策委員会 平成30年度事業計画、予算 WBCカンファレンスセンター

業務部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月16日 技術情報提供サービス説明会（名古屋）自動車部品技術情報提供サービス（WEB展示会）の特長、実機による説明、今後のスケジュール、申込みについて説明会を開催した。説明者：株式会社エフコムマーケティング ウィンクあいち
- 10月16日 事業承継セミナー（名古屋）自社並びに取引先における事業承継への対応について、セミナーを開催した。テーマ：事業承継の公的支援制度の紹介 講師：経済産業省中部経済産業局 産業部次長 岩田則子 様 テーマ：事業承継のポイントと対応事例について 講師：（独）中小企業基盤整備機構中部本部 事業承継コーディネーター 松本久敏 様 テーマ：中小企業基盤整備機構のご紹介（各種支援制度）講師：（独）中小企業基盤整備機構中部本部経営支援課 課長代理 高田竜哉 様 ウィンクあいち
- 10月17日 中小企業施策委員会 生産性・付加価値向上等支援活動（第2回）IoTを導入して生産性向上に取り組んでいるジェイテクト刈谷工場の見学と、取引先（中小企業）での取組事例（導入方法と効果）の紹介を行った。（株）ジェイテクト 刈谷工場
- 10月18日 BCP（事業継続計画）演習（広島）地震が発生した場合を想定した事業継続計画の演習を開催した。講師：SOMPOリスクアマネジメント(株) リスクマネジメント事業本部コンサルタント 広島トランヴェールビル
- 10月20日 技術情報提供サービス説明会（大阪）自動車部品技術情報提供サービス（WEB展示会）の特長、実機による説明、今後のスケジュール、申込みについて説明会を開催した。説明者：株式会社エフコムマーケティング AP大阪梅田東ビル
- 10月20日 事業承継セミナー（大阪）自社並びに取引先における事業承継への対応について、セミナーを開催した。テーマ：事業承継の公的支援制度の紹介 講師：経済産業省近畿経済産業局産業部 中小企業課 課長 山本哲弘様 テーマ：事業承継のポイントと対応、事例について 講師：（独）中小企業基盤整備機構近畿本部 事業承継コー

ディネーター 天井省二様 テーマ：中小企業基盤整備機構のご紹介（各種支援制度）講師：（独）中小企業基盤整備機構近畿本部経営支援課 課長代理 能登博邦 様 AP大阪梅田東ビル

- 10月23日 技術情報提供サービス説明会（東京）自動車部品技術情報提供サービス（WEB展示会）の特長、実機による説明、今後のスケジュール、申込みについて説明会を開催した。説明：株式会社エフコムマーケティング 部品会館
- 10月23日 事業承継セミナー（東京）自社並びに取引先における事業承継への対応について、セミナーを開催した。テーマ：事業承継の公的支援制度の紹介 講師：中小企業庁事業環境部財務課 課長 菊川人吾 様 テーマ：事業承継のポイントと対応、事例について 講師：（独）中小企業基盤整備機構関東本部経営支援部 事業承継コーディネーター 松林伯尚様 テーマ：中小企業基盤整備機構のご紹介（各種支援制度）講師：（独）中小企業基盤整備機構関東本部経営支援部 経営支援課 課長代理 井上鉄也 様 部品会館
- 10月24日 ガイドラインセミナー（大分）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士・社会保険労務士 七田 亘様 中津商工会議所
- 10月27日 BCP（事業継続計画）演習（浜松）地震が発生した場合を想定した事業継続計画の演習を開催した。講師：SOMPOリスクアマネジメント(株) リスクマネジメント事業本部コンサルタント 元城町共同ビル
- 10月30日 旧型補給部品WG フロー、チェックリスト、マニュアル作成等の取組みの課題や型管理保管費用について意見交換を行った。東京ビッグサイト
- 11月2日 総務委員会運営幹事会と調達・生産部会幹事会との合同会議 ・自主行動計画フォローアップ調査の進捗状況に着いて報告を行った。 ・旧型補給部品WGの活動状況について報告を行った。 ・取引適正化に係る活動の方向性について説明を行った。 部品会館
- 11月10日 ガイドラインセミナー（東京）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士・社会保険労務士 七田 亘様 TAC八重洲校
- 11月13日 ガイドラインセミナー（大阪）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士 津賀 弘光様 TAC梅田校
- 11月13日 ガイドラインセミナー（広島）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士 津賀 弘光 様 合人社ウエンディひと・まちプラザ
- 11月14日 補修部品用品委員会 施設見学会 ・自動車に比べて生産台数が少ないが、顧客別の仕様数が多い特装车両の製造ラインを見学し、生産効率化等の取組みについてご紹介頂いた。 極東開発工業 三木工場

11月17日 中小企業施策委員会 生産性・付加価値向上等支援活動（第3回）IOTを導入して生産性向上に取り組んでいるジェイテクト刈谷工場の見学と、取引先（中小企業）での取組事例（導入方法と効果）の紹介を行った。（株）ジェイテクト 刈谷工場

11月22日 旧型補給部品WG ・自主行動計画（型管理の適正化）、廃番通知/型廃却活動の具体的な活動に関する調査の結果について報告を行った。 ・部品メーカーにおける型廃棄のフロー、チェックリスト、マニュアルの業界標準版（案）についての検討を行った。 部品会館

11月24日 総務委員会運営幹事会 ・ノートパソコン製品本体の組み立てまでを一貫して手がけるの島根富士通の見学会を開催した。 ・12月6日の総務委員会の運営、及び自工会調達委員会と部工会政策委員会、総務委員会合同懇談会について検討を行った。 島根富士通、出雲グリーンホテルモリス

11月27日 経営調査部会 平成29年度第2四半期の自動車部品工業の経営動向（案）の取りまとめについて検討を行った。 部品会館

11月29日 経営調査部会 講演会（東京）国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略に関する講演会を開催した。 テーマ：国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株) 企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治 様 駐健保会館

11月30日 経営調査部会 講演会（名古屋）国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略に関する講演会を開催した。 テーマ：国内外の自動車市場の展望と自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株) 企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治 様 名古屋栄ビル

12月6日 総務委員会 上場企業78社の2017年度上半期の自動車部品工業の経営動向について検討を行い、12月14日の記者会見でその結果を発表した。 くるまプラザ

12月8日 人財・労務部会 働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する動きについて説明を行った。 説明者：厚生労働省 労働基準局労働条件政策課 課長補佐 金子 正 様 厚生労働省 雇用環境・均等局有期・短時間労働課 多様な働き方推進室 企画第一係長 長谷川 勇希 様 AP品川

12月12日 ガイドラインセミナー（浜松）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士・社会保険労務士 田 亘様 アクトシティ浜松研修交流センター

12月13日 ガイドラインセミナー（名古屋）中小事業者のための自動車産業適正取引ガイドラインセミナーを開催した。 テーマ：自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：中小企業診断士・社会保険労務士 七田 亘様 TAC名古屋

12月14日 旧型補給部品WG ・経産省・適正取引化研究会、自工会調達委員会との懇談会結果について報告を行った。 ・フロー、チェックシート、マニュアルの最終版案及び、「型廃棄・返却申請書/作業完了報告書」雛形共通フォーマット案の検討を行った。 部品会館

12月15日 中小企業施策委員会・自動車部品技術情報サービス

（「Web展示会」）の準備状況について説明を行った。 ・取引適正化の取組み状況について説明を行った。 ・事業分野別経営力向上推進機関活動の結果について報告を行った。 名古屋東急ホテル

●行事予定〔1/16～3/15〕

2月15日 補修部品用品委員会 講演会 未定
2月16日 コンプライアンスWG 部品会館
2月23日 総務委員会運営幹事会 部品会館
2月26日 税制部会 部品会館
2月28日 経営調査部会 部品会館
3月9日 総務委員会 部品会館
3月15日 中小企業施策委員会 東京

国際部

●業務報告〔10/16～12/15〕

10月16日 定期コンテナ船事業統合説明会 1.部工会国際物流WG リーダー挨拶 2.オーシャンネットワークエクスプレス ジャパン株式会社説明 1)新会社の概要 2)事業統合前と新会社での変化点 3)今後の進め方 3.質疑応答 部品会館

10月19日 海外赴任前講習会「中国 北京・天津等北部地域」 1.中国の医療事情・準備とリスク 2.中国における安全対策 3.質疑応答 部品会館

10月24日 AMEICC自動車WG 1.アセアン自動車産業報告等 2.次世代自動車関連報告等 3.その他 東京プリンスホテル

10月25日 北米代表一時帰国報告会 1.生まれ変わる北米自動車市場 2.質疑応答 部品会館

11月10日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報報告 2.本年度事業報告等 3.知財戦略についての講演 (株)ブリヂストン 知的財産本部長 荒木 充氏 4.その他 部品会館

11月20日 FTA・通商部会 1.最近の通商動向 2.本年度事業の進捗 3.EPA取り組み事例研究 日本特殊陶業(株) 部品会館

11月29日～12月2日 オートメカニカ上海2017における反模倣品の啓発活動 1.会員8社の真贋サンプル展示およびプレゼンテーション実施 2.正規品取扱い店情報の提供 3.アンケートによる来場者の模倣品に対する意識調査 上海市

12月3日～5日 中国公的機関への模倣品摘発要請活動 1.江蘇省南京市金陵税関、同無錫市工商行政管理局、同蘇州市工商行政管理局への真贋判定セーの実施 江蘇省

12月7日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.TPP11会長コメントの掲載について 3.委員会事業実績見込みおよび来年度事業計画案について 4.本年度事業案について 5.その他 部品会館

●行事予定〔1/16～3/15〕

1月18日 海外赴任前講習会「タイ」 1. タイの医療事情・準備とリスク 2. タイにおける安全対策 3. 他 部品会館

2月9日 特許庁審査部との意見交換会 同庁審査業務に関する会員企業の要望事項につき意見交換 部品会館

2月9日 知的財産権部会 1.関係官庁からの知財関連情報報告 2.本年度事業報告 3.インドネシア模倣品流通調査報告会 弁護士法人キャスト 島田敏史氏 4.その他 部品会館

- 2月28日 国際委員会 1.最近の情勢について 2.本年度事業の進捗 3.EU&ブレグジット研究会 講演 経済産業省 通商戦略室長 福永 哲郎氏 部品会館
- 3月11日 日米欧三極会議およびG7（三極+カナダ、メキシコ、ブラジル、インド）会合 事務局会合 ジュネーブ

関東支部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月20日 企画部会 ①平成29年度関東支部事業報告及び評価（上期） ②平成29年度関東支部下期事業計画 ③平成30年度関東支部事業要望調査の実施について プレス工業(株) 藤沢工場
- 11月2日 リサイクル研究会（工場見学会） ①会社・工場概要説明 ②工場見学 (株)ハイパーサイクルシステムズ、(株)グリーンサイクルシステムズ
- 11月14日 工場見学会 ①会社・事業所概要説明 ②NECプラットフォームズ(株)掛川事業所の生産革新の取組みとIoT戦略 ③工場見学 ④自動車部品業界におけるAI・IoT戦略 NECプラットフォームズ(株)掛川事業所
- 11月22日 拡大運営委員会・講演会 【拡大運営委員会】①平成29年度関東支部上期事業報告 ②ドイツ/チェコ自動車産業視察報告 【講演会】テーマ：「新興国を中心とした自動車産業の現状と展望」、講師：早稲田大学 名誉教授 早稲田大学自動車部品産業研究所 顧問 小林 英夫様 八芳園
- 12月8日 企画部会 ①平成29年度関東支部事業の評価について ②関東支部事業要望調査の結果について ③平成30年度関東支部事業計画（案）の検討 (株)マーレフィルターシステムズ 九州工場

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月25日 新年懇親会 経団連会館
- 2月15日 補修部品用品研究会（講演会）講師：(株)rimOnO 代表取締役社長 伊藤慎介 様
- 2月23日 企画部会 三菱電機(株)姫路製作所千代田工場
- 3月13日 運営委員会及び役員選考会 八芳園

中部支部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月12日 局長講演会 「中部地域の産業の展望と課題」 中部経済産業局 局長 富吉賢一氏 名古屋市内
- 10月13日 優良企業工場見学会（中小企業部会） エクセディ 大阪府寝屋川市
- 10月17日 事例選考会（環境部会） 環境保全代表事例の選考 名古屋栄ビル
- 11月6日 IATF16949 コアツール実践2日間セミナー（(株)自動車部品会館）名古屋栄ビル
- 11月13日 中小企業大学校瀬戸校研修会「コスト削減のための在庫管理」中小企業大学校瀬戸校
- 11月21日 講演会（中小企業部会）「モビリティ革命2030～自動車産業の破壊と創造～」デロイト トーマツ コンサルティング 執行役員 田中義崇氏/マネージャー 西原

雅勇氏 名古屋栄ビル

- 11月24日 環境保全に関する講演会・事例発表会 「キャノンの環境経営」キャノン(株) 「Hondaの燃料電池車開発と水素社会に向けて」(株)本田技術研究所 事例発表会（13事例）名古屋工業研究所
- 12月5日 第2回運営委員会 上期事業・決算報告 名古屋市内
- 12月12日 海外視察報告会 欧州自動車産業視察報告会 名古屋市内

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月23日 優良施設見学会（環境部会） トヨタ車体(株)いなべ工場 三重県いなべ市
- 1月29日 IATF16949:2016 内部監査員2日間研修（(株)自動車部品会館）名古屋栄ビル
- 1月30日 優良企業工場見学会（中小企業部会） オークマ(株) 愛知県丹羽郡
- 2月2日 支部懇談会・懇親会 新春懇談会 名古屋市内
- 2月6日 中小企業大学校瀬戸校研修会 「成果を上げる仕事管理術」 中小企業大学校瀬戸校
- 2月15日 優良施設見学会（環境部会） アイシン精機(株)衣浦工場 愛知県碧南市
- 2月28日 講演会（中小企業部会） 「『AI×働く』のすぐそこにある未来」（仮題） 富士通(株) 常務理事 首席エバンジェリスト 中山五輪男氏 名古屋栄ビル
- 3月7日 正副支部長打合せ会 平成30年度支部事業計画 名古屋市内
- 3月9日 講演会（環境部会） 脱炭素社会に向けたエネルギーシナリオ（仮題） WWF ジャパン 小西雅子氏 名古屋栄ビル

関西支部

●業務報告【10/16～12/15】

- 11月14日 補修部品分科会 工場見学会 ※ 関東支部 補修部品用品研究会共催 極東開発工業(株) 三木工場
- 11月17日 第3回正副支部長会 第2回運営委員会 情報交換会 講演会 懇親会 「CO2 古代から現代そして未来への進展」 藤田機械技術士事務所 代表 藤田泰正氏 オリエンタルホテル広島
- 11月22日 生産分科会 工場見学会 倉敷化工(株)
- 12月5日 総務分科会 勉強会・工場見学会 「会員企業トップによる会社および会社経営についてのご説明」「リョービ様で扱われているアルミダイカスト部品について、工場内物流や損傷防止策、3Sの管理上の工夫点」 リョービ(株) 代表取締役社長 浦上彰氏 / 執行役員 ダイカスト本部 企画開発部長 望月達由氏 リョービ(株) 本社
- 12月13日 補修部品分科会/JAPIA関西倶楽部 講演会 「和食文化と京都」 京都府立大学副学長/和食文化研究センター長 宗田好史氏 六甲山ホテル

●行事予定【1/16～3/15】

- 2月7日 品質分科会 勉強会 「ISO14001（2015年版）改訂内容の実践的解説」
- 2月8日 生産分科会 工場見学会・柿内先生ご指導会 GMB(株) 奈良本社工場
- 3月2日 第4回正副支部長会 第3回運営委員会 情報交換会 講演会 懇親会 ホテルグランヴィア岡山

技術関係委員会等の開催状況 (10/16～12/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
11月8日	総合技術委員会 幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会審議内容等について 2) 部工会技術組織の改組について
12月5日	総合技術委員会 幹事会	アイシン精機 (台場)	1) 総合技術委員会審議内容等について

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月24日	基準認証部会 中近東WG	自動車部品会館	1) サウジ Spare-Parts WTOの情報共有 2) UAE等
	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) ミッション計画について 2) JAMA/CNCA交流会について
11月13日 ～11月19日	基準認証部会 UN/ECE/ WP29	ジュネーブ	1) UN/ECE/WP29会議参加 2) CLEPA/MEMA/JAPIA ミーティング
11月20日	基準認証部会 中国WG	自動車部品会館	1) ミッション計画について 2) JAMA/CNCA交流会について
12月6日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) JASIC 官民フォーラム報告 2) ASEANミッション計画

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月19日	DE促進部会 幹事会	沼津労政会館	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認 5) その他、連絡事項
10月20日	DE促進部会	沼津労政会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動
10月27日	CATIA研究会	ダッソー・システムズ (大崎)	1) CATIA V6の実機検証
11月7日	合同幹事会	自動車工業会	1) 総合技術委員会報告 2) 自工会活動報告
11月17日	DE促進部会 幹事会	自動車部品会館	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認 5) その他、連絡事項
	DE促進部会	自動車部品会館	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) 情報共有活動
12月12日	E-IT新技術WG	小糸製作所	1) アンケート案の最終確認
12月14日	NX研究会	デンソー (刈谷)	1) NXの実機検証
12月15日	DE促進部会 幹事会	デンソー (刈谷)	1) 活動日程確認と前回宿題確認 2) 上位委員会・幹事会、JAMA等の情報共有 3) WG活動に関する問題と展開事項の確認 4) 部会での通達内容確認
	DE促進部会	デンソー (刈谷)	1) 上位委員会報告 2) 幹事会検討事項の討議 3) 月次進捗報告 4) その他（困り事相談、情報交換等） 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月17日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 入口管理G報告 2) 法規制調査G報告 3) GLAPSG報告
	GLAPS個別会議	自動車部品会館	1) リスト作成の方向性検討
10月18日	物質調査の進め方に関する意見交換会	AP品川	1) 自動車サプライチェーンとしての取るべきスタンス 2) 課題に対するアプローチ 3) 部工会メンバーと共有したい内容
10月20日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) 2018年10月改正涉外 2) IMD5001a、SC90チェック涉外
10月24日	水取り組み先進企業見学会	1.サントリー本社 2.サントリー白州工場	1) 講演「サントリーグループにおける環境および持続可能性への取り組み」 2) 工場見学（サントリー天然水南アルプス白州工場、ウイスキー工程）
	物質調査の進め方に関する意見交換会	AP品川	10/18と同じ
10月25日	製品環境部会 幹事会	自動車部品会館	1) SUAL会議&AIAG Conference結果・報告 2) 自工会・ELV規制物質対応・報告 3) 自工会・個別物質分科会・報告
10月26日	涉外担当幹事会	自動車部品会館	1) 部工会関連会議体出席報告 2) 次回の環境情報誌・原稿の件
	製品環境部会	自動車部品会館	1) SUAL会議&AIAG Conference結果・報告 2) 自工会・個別物質分科会・報告 3) 自工会・物質リスト検討分科会・報告
11月1日	LCA分科会 将来検討TF	刈谷市産業振興センター	1) LCA分科会の対応事項と全体スキーム 2) LCA分科会活動組織体制 3) 活動計画取り組みの基本方針と優先順位
	物質調査の進め方に関する意見交換会	自動車部品会館	10/18,24と同じ
11月6日	LCA分科会 統合ツールWG	自動車部品会館	1) 統合ツールの機能案について
11月7日	省エネ事例TF 工場見学会	日立産機	1) 会社概要説明・省エネ事例紹介 2) 工場見学 3) 質疑応答
11月10日	LCA分科会 製造＋使用段階負荷標準化WG	自動車部品会館	1) 統合ツールの開発 2) 二輪車用部品の使用段階負荷算出の考え方の提案
11月13日	生産環境部会	刈谷市産業振興センター	1) 環境対応委員会、分科会の本年度活動状況の報告、審議 2) 事務局情報
	環境対応委員会 幹事会	刈谷市産業振興センター	1) 各部会・分科会の本年度活動状況報告、審議 2) 事務局情報
11月14日	GLAPS個別会議	刈谷市産業振興センター	1) リスト対象法規明確化資料、事前説明資料 2) 北米地域との連携強化 3) 12/5～6 APSG会議準備
11月16日	物質調査の進め方に関する意見交換会	自動車部品会館	10/18,24,11/1と同じ
11月17日	化学物質リスクアセスメントセミナー（名古屋会場）	名古屋国際センター	1) 化学物質の管理と改正安衛法 2) リスクアセスメント概要 3) 「危険性」のリスクアセスメント 4) 「有害性」のリスクアセスメント 5) BIGDr.Webサイトの使い方 6) リスク評価支援ツールBIGDr.Workerの使い方
	LCA分科会 製造＋使用段階負荷標準化WG	自動車部品会館	1) 製造＋使用段階の各製品の標準データの確認
11月22日	温暖化防止推進分科会 省エネ事例・情報展開TF	自動車部品会館	1) 勉強会の内容検討 2) H29関東地区省エネ事例の内容確認状況について
	温暖化防止推進分科会	自動車部品会館	1) 分科会活動状況・各TFより中間状況について報告・審議

11月24日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) GASG (11/15・16) 報告 2) 12/8全体会内容協議
11月29日	渉外担当幹事会	自動車部品会館	1) 部工会関連会議体出席報告 2) 次回の環境情報誌・原稿の件
	製品環境部会	自動車部品会館	1) IMDS-SC with suppliers・結果報告 2) 中国SUAL会議・結果報告 3) 自工会・物質リスト検討分科会・報告
11月30日	製品環境部会 幹事会	自動車部品会館	1) IMDS-SC with suppliers・結果報告 2) フロロカウシルとの打合せ結果 3) 物質調査の進め方について
12月1日	化学物質規制対応分科会	自動車部品会館	1) 各国法規制の動向 2) 物質精査活動 3) 欧州自工会情報 (ACEA REACH TF他)
12月6日	LCA分科会 製造＋使用段階 負荷標準化WG	自動車部品会館	1) 製造＋使用段階の各製品の標準データの確認
12月7日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) IMDS渉外関連案件
12月8日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) 全体会の内容確認 2) 入力事例集の事例追加確認
12月8日	物質調査システム分科会	自動車部品会館	1) JAMAシートとIMDSの相互互換性向上に関する意見交換 2) 2019年GADSL改正見直し紹介 3) IMDS渉外関係情報紹介
12月12日	工場用化学物質分科会 入口 管理G	自動車部品会館	1) 全体計画の修正 2) ラベルとSDSの対応のガイダンスの見直し 3) 仕入先提供情報の社内管理への活用
	工場用化学物質分科会 法規 調査G	自動車部品会館	1) 各国法規制定・改訂情報収集 2) 2016年度の変化点 反映 3) 対象国の見直し
	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 入口管理G報告 2) 法規制調査G報告 3) GLAPSG報告
12月13日	化学物質リスクアセスメン トセミナー (東京会場)	東京ウィメンズプ ラザ	11/17(名古屋会場)と同じ
12月14日	LCA分科会 統合ツールWG	刈谷市産業振興セ ンター	1) LCAの活用事例の紹介(アイシン精機) 2) 統合ツール使用案について 3) 二輪車用部品の使用段階LCAの検討

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月17日	エアバッグ分科会 CE-WG	広島オフィスセンター	1) 欧州CEラベル記載内容について BAMメンバーとの打合せ
10月18日	予防安全装置分科会	自動車部品会館	1) ITALDA講演会について 2) J-NCAP平成29年度第1回アセスメント評価検討会について
10月20日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第6回ISO国際会議対応審議 3) 2017-2018年度標準化調査内容検討
	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISOベルリン国際会議出席報告について 2) JIS対応について
10月23日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
10月23日	後退警報器部会	自動車部品会館	1) JASIC後退警報規制化国内WG報告 2) 法規内容に対する意見交換

10月25日	第19回シート技術研究発表会	コクヨホール (品川)	1) 体圧分布からの新たな快適性予測手法の開発 / 日本発条 2) 自動車用シート着座における姿勢変化に対する運転疲労蓄積の検証 / タチエス 3) 弾性布「バネックス」の展開について / TBカワシマ 4) TNGAコンセプトに基づいたフロントシートの開発 / トヨタ紡織 5) 筋による能動的姿勢制御を考慮した乗り心地 解析のための乗員挙動予測モデルの開発 / 日産自動車 6) ラリー極限状況下でのシートに対する想い / チームスガワラ
10月26日	シートベルト分科会 幹事会	安保ホール (名古屋)	1) TASSとのミーティング
11月1日	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CRSインフォーマル会議・CRS国内対応会議報告 2) NASVA会議報告 3) CRS用語について
	安全装置部会幹事会	自動車部品会館	1) 秋季合同会議開催計画 2) 平成29年度上期部会・分科会・WG活動中間報告 3) 平成29年度部会・分科会予算調整について 4) 部会構成について
11月10日	クッション性分科会	株式会社ナックイ メージテクノロジー センター (横浜)	1) 株式会社ナック 見学
11月14日	GTB対応会議	自動車部品会館	1) 次回第124回GTB会議での審議内容と対応方針 2) GTB日本開催 (2018年5月)
	ランプ部会	自動車部品会館	1) 第78回GRE会議の結果報告 2) CIE TC2-67「自動車用ランプの測光」規格化 作業対応 3) タイのRR単品認証制度
11月21日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認 2) 第6回ISO国際会議出席報告およびアクションアイテム検討 3) 2017～2018年度標準化調査内容検討
11月27日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2018年度版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) 各国部品認証対応について 4) 自技会関連について
12月1日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) JIS改訂検討
	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) 自技会情報共有 2) 国際標準化会議出席報告
12月7日	秋季安全装置部会 合同会議	1.新横浜ホール 2.株式会社ナックイ メージテクノロジー センター	1) 平成29年度上期部会・分科会・WG中間活動報告 2) 平成29年度部会・分科会中間会計報告 3) PR活動について 4) 国内外法規動向等の情報 5) 基準認証部会関係報告 6) 株式会社ナックイメージテクノロジー 技術センター 見学
12月8日	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) 中国CCC監査結果報告
12月14日	操舵系技術部会	自動車部品会館	1) ACSF・ITS/AD会議の状況について

●行事予定 [1/16～3/15]

月 日	会合名称など	概 要	場 所
1月19日	物質調査システム分科会 幹事会		自動車部品会館
//	予防安全装置分科会		自動車部品会館
//	シート部会		自動車部品会館
1月22日	車輪技術部会		自動車部品会館
//	生産環境部会		刈谷市産業振興センター

//	環境対応委員会 幹事会		刈谷市産業振興センター
1月22日 ～1月29日	基準認証部会 中国ミッション		中国
1月23日	LCA分科会 製造+使用段階負荷標準化WG		自動車部品会館
1月24日	物質調査の進め方に関する意見交換会		自動車部品会館
1月25日	物質調査の進め方に関する意見交換会		自動車部品会館
1月26日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	LCA分科会 将来検討WG		刈谷市産業振興センター
1月30日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
//	EDI部会		自動車部品会館
1月31日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
2月1日	物質調査の進め方に関する意見交換会		自動車部品会館
2月2日	フッ素性分科会		自動車部品会館
//	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
2月5日	物質調査の進め方に関する意見交換会		自動車部品会館
2月6日	環境対応委員会		自動車部品会館
//	IT対応委員会 幹事会		自動車部品会館
2月8日 ～2月17日	基準認証部会 ASEANミッション		ASEAN (ベトナム、タイ、インドネシア)
2月14日	IT対応委員会		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会 入口管理G		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会 法規調査G		自動車部品会館
//	工場用化学物質分科会		自動車部品会館
2月15日	電線部会		自動車部品会館
2月16日	物質調査システム分科会 幹事会		自動車部品会館
2月20日	環境保全分科会		自動車部品会館
2月21日	第3回総合技術委員会		自動車部品会館
2月22日	化学物質規制対応分科会 幹事会		AP品川
//	NX研究会		シーメンス (新宿)
2月23日	DE促進部会 幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
2月27日	製品環境部会 幹事会		自動車部品会館
2月28日	渉外担当幹事会		自動車部品会館
//	製品環境部会		自動車部品会館
3月7日	基準認証部会 幹事会		自動車部品会館
//	基準認証部会		自動車部品会館

中部支部 中小企業部会主催 「株式会社エクセディ」視察報告

(一社)日本自動車部品工業会 中部支部
中小企業部会 委員 高橋直人(記)
(豊和繊維工業㈱ 総務部長)

1. 日時

2017年10月13日(金) 13:30～15:30

2. 視察先

株式会社エクセディ
(大阪府寝屋川市木田元宮1-1-1)

3. 参加者

中部支部 会員企業 13社(16名)

4. 視察スケジュール

【13:30～13:50】会社概要説明

【13:50～14:20】EXEDY版IoTシステム
「EXPRESS」説明

【14:20～15:10】工場見学 ①MT組立工場
②トルコン工場

【15:10～15:30】質疑応答・情報交換

5. 訪問目的

工場オペレーションにIoTを駆使し、自動化と不良ゼロを目指すスマートファクトリーに取り組むエクセディの製造工程とそれを支えるシステムを見聞し、会員各社のIT戦略の参考とする。

6. 会社概要

代表者:代表取締役社長 久川 秀仁

設立:昭和25年(1950年)7月(旧社名 大金製作所)

資本金:82億84百万円(東証一部上場)

売上高:2,661億円(連結/2017年3月期)

従業員数:連結18,040名、単体3,894名

生産部品:MT車用乾式クラッチ、AT車用トルクコンバーター、建設機械・産業車両・二輪車用クラッチ、他

7. 視察報告

エクセディでは生産管理の効率化・省人化に大きな効果をもたらすと期待されるIoTの導入をシステム内製化によって実現し、しかも世界中の工場の生産状況をリアルタイムに把握する仕組みを実際に稼働させている。

同社のシステム開発エピソードを直接聞き、また現場での活用を実際に見学できる機会を得ることは、我々中部地区の部品サプライヤーにとって何よりもありがたい、と小雨のばらつく空模様の下、一路大阪・寝屋川を目指した。

まず、工場見学に先立ち、CSR・広報部の三輪部長から同社の概要がプレゼンされた。印象的だったのは、同社の企業理念である“EXEDY WAY”中のユニークな標語「2-2-2」である。問題解決の時間軸の目安としての「2分、2時間、2日(もしくは2週間)」という同社独自の考え方で、会議中であっても電話で照会することにより2分で疑問点や不明点などが解決されるなら会議を中断して電話を掛けてもよい、などの実例を挙げての説明だった。この「2-2-2」は全従業員に浸透しており、IoTのシステム開発においてもその考え方は取り入れられたという。

次に今回の見学のメインとなる「EXPRESS」システムについて、開発に従事された生産技術本部の担当マネージャから概要が説明された。

「EXPRESS」は、Excedy Production Restructuring Support Systemの頭文字が命名の





由来であり、一言で言えば「グローバル生産拠点の見える化」を実現するためのシステムだ。(見える化、ではなく、観える化が同社での呼び方)

同社も多聞に漏れず、かつては基幹システムをレガシータイプのメインフレームに長い間頼っていたが、17000本程あったソフトウェアをクラウド化するのを機に、IoTの導入による生産状況の可視化に取り組むことになった。

具体的には、従来の紙帳票や手書きによる工程管理を各種センサーから生産状況や設備稼動状態のデータを収集し、これを「EXPRESS」で一元的に管理、作業員や管理者は手許のPC画面やタブレット画面で一覧できるようになった。出来高と計画との差異や設備の異常停止状況などをリアルタイムにどこからでも把握することが可能となった訳だ。現在では、蓄積されたデータの解析により、より精緻な生産計画や設備の保全計画の立案にトライする段階に至っている。

実際の工場見学はクラッチカバーの自動製造ラインからスタートした。このラインの特徴は考え抜かれた設備レイアウトと省人化・自動化の徹底であり、従来は8名で行っていた組立作業が現在は3名でこなせるようになり、またスキルによるバラつきも一掃されたということで感心させられた。

次にトルクコンバーターのラインを見学した。このラインに従事しているのは殆どが女性従業員であり、女性の作業位置に合わせて設備スイッチや作業台の高さが調整され、また女性専用のホットコー

ナーが設置されるなど、同社がダイバーシティに積極的に取り組む様子が伺えられた。また通路の近くに大きな液晶画面が設置され「EXPRESS」での稼動状況が確認できることが見学者にも容易に分かるように工夫されていた。

見学コースの視察を終え、再び本館ホールに戻っての質疑応答・情報交換となったが、参加メンバーからの質問は、やはりシステム内製化の経緯や開発メンバーの構成、苦勞した点等に集中し、参加各社のIoTに対する熱意が感じられた。

8. 所感

同社の視察を通じて感心したのは、従業員の制服、設備機械、フォークリフトに至るまで、同社のコーポレートカラーであるホワイト&ブルーのカラーリングに統一されていることだ。やろうと思ってもなかなかここまで徹底してはできないものだ。

また、CSRの柱としてスポーツ・文化活動にも力を入れている。例えば、女子サッカーなでしこリーグの「伊賀FCくノ一」のユニフォームには“EXCEDY”のロゴがプリントされているが、単なるスポンサー契約だけではなく、なんと全選手が同社及び関連会社の社員さんだそう。

前述の統一されたカラーリングや積極的なCSR活動を通じて、従業員の間に一体感がしっかり醸成され、“I LOVE EXEDY”というコンセプトが会社全体に浸透していることは間違い無い。そういった土壌があればこそ、IoT=EXPRESSによる「グローバルでの観える化」が根付いているのだと感じた。

最後に、エクセディは部工会では関西支部に所属されているが、我々中部支部中小企業部会の視察を快く、また洗練された準備で迎えて頂いたことに感謝申し上げたい。



行政・団体

10月.....

11月.....

■東京モーターショー閉幕、来場者5%の減少(7日)

「第45回東京モーターショー2017」が10日間の会期を終え、5日に閉幕。

■自動車CO2 3割削減へ、EUが新規制 EV移行、競争力強化へ(10日)

欧州連合(EU) 欧州委員会は、域内で販売する新車(乗用車、小型商用車)の二酸化炭素(CO2) 排出量を、21年目標に比べ平均で3割削減するようメーカーに求める新たな規制案をまとめた。

■政府、FCV30年普及目標を設定 バス1200台フォーク1万台(15日)

政府は、燃料電池(FC) で走るバスやフォークリフトの普及目標をつくる。

■経産相、三菱マテリアル子会社データ改ざん「極めて遺憾」(26日)

三菱マテリアル子会社の品質データ改ざんを受け、世耕弘成経産相は「日産自動車、神戸製鋼所、スバルといった個別の事案が生じているなかで新たな不正事案が発生したことは極めて遺憾」としたうえで「三菱マテリアルと子会社からの報告の後、ただちに関係部局から事実関係の究明、適切な顧客対応などを速やかに進めるよう指示をした」と語った。

12月.....

■品質管理の重要性強調、部工委会長会見 EVシフトは対応可能(15日)

日本自動車部品工業会(部工会)の志藤昭彦会長は都内で会見し、今年に自動車メーカーの無資格者検査問題や鉄鋼メーカーのデータ不正問題が相次いで発覚したことについて、「信頼回復のためにまずはコンプライアンスを順守し、今まで以上に日本製品の信頼性を高めることが必要」と品質管理の重要性を強調。

■自動車総連、春闘ベア「月3千円」 基本方針案を発表(16日)

自動車総連は都内で記者説明会を開き、2018年春闘の基本方針案を発表。

■国交省、来年2月に国際基準 方向指示器や非常点滅表示(22日)

国土交通省は、方向指示器や非常点滅表示(ハザードランプ)に関する国際基準を来年2月に導入する方針だ。

■8年度予算案閣議決定 自動運転関連で5割増、過去最大の97.7兆円(25日)

政府がこのほど閣議決定した2018年度予算案は、基本的な予算規模を示す一般会計総額で97兆7128億円となり、6年連続で過去最大を更新した。歳入面では、景気回復で税収が91年度(決算ベース)以来の高水準となる59兆790億円に上ると見積もった。

■経産省、JIS法の罰則強化 製造業の品質保証後押し(25日)

経済産業省は、製造業の品質保証体制を強化させるための政策を打ち出す。日本工業規格(JIS)法に基づく検査対象に経営管理部門などを追加するほか、これまで最大100万円だった罰金額も引き上げる。

国内

10月.....

■三菱電機、電力損失が世界最小 パワー半導体素子を開発(30日)

三菱電機は、パワー半導体モジュールに搭載されるパワー半導体素子として電流を高速遮断する保護回路無しで使える、電力損失が世界最小のSiC(炭化ケイ素) パワー半導体素子を開発した。

11月.....

■トヨタ系7社4～9月期、全社が増収増益 通期上方修正の動き(1日)

トヨタ自動車系大手部品メーカー7社が発表した2017年4～9月期(第2四半期)連結業績は、円安による為替換算影響に加え、受注増や合理化の効果によって売上高、当期利益が全社増収増益となった。

■ルネサス、自動運転用ソリューションがトヨタなど採用(1日)

ルネサスエレクトロニクスは、トヨタ自動車とデンソーが2020年の実用化に向けて開発している自動運転車に、車載情報・ADAS(先進運転支援システム)用SoC(システムオンチップ)「R-Car」と車載制御用マイコン「RH850」を含む自動運転車向けソリューションが採用されたと発表。

■日産、10月登録半減 販売現場、影響長期化の懸念(2日)

日産自動車は、軽自動車を除く10月の新車販売台数が前



NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

クローズアップ

パナソニック、トヨタとの協業で車載事業の売上高が 21年度2兆5千億円 世界トップ10に現実味

パナソニックがトヨタ自動車と車載用角形電池の開発に向けた協業で合意したことは、パナソニックの車載事業の成長戦略において重要な意味を持つ。パナソニックは車載事業の売上高を2021年度に2兆5000億円に引き上げ、世界の自動車部品業界でトップ10に入るサプライヤーを目指している。16年度実績の1.3兆円に対し、ほぼ倍の1.2兆円の積み上げが必要だが、その一翼を担うのが電気自動車（EV）などに搭載される車載用リチウムイオン電池をはじめとする環境領域だ。（12月15日）



パナソニック

年同月比52.8%減の1万2745台と半減した。

■明電舎、EVやPHVのモーターとインバーター 一体型 駆動システム実用化（10日）

明電舎は電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド車（PHV）の駆動用モーター、インバーター事業を強化する。小型化や高効率化が図れるモーターとインバーターを一体化した駆動システムなど商品力を高めた製品を開発して受注拡大につなげる。

■神戸製鋼所、不正受けて再発防止策など経産省に報告（11日）

神戸製鋼所の川崎博也会長兼社長は、経済産業省を訪れ、アルミ・銅材の不正に関する調査結果と再発防止策を多田明弘・製造産業局長に報告。

■NTTDコモ、コネクテッドカーの5G通信実験に成功（16日）

NTTDコモは、トヨタ自動車、エリクソン、インテルと自動車通信に5G（第五世代移動通信方式）を活用する実証実験を都内で実施し、小型車載アンテナを用いて複数の5G基地局にまたがる走行実験に成功した。

■ホンダとソフトバンク、5G技術でも協力 つながる車を 共同研究（17日）

ホンダとソフトバンクは、第5世代移動通信システム（5G）を活用したコネクテッドカー（つながる車）の技術の共同研究を始める。

■トヨタ、20年 中国にEV導入、新エネ車規制に対応（18日）

トヨタ自動車は、中国でトヨタブランドの電気自動車（EV）を2020年に導入する。

■クルマを使って自動決済 ZF、「カー eウォレット」開発（18日）

ゼット・エフは、自動車を決済手段にするシステム「カー eウォレット」を開発。

■日産、無資格完成検査でサプライヤーの費用補償（20日）

日産自動車は、無資格者の完成検査問題で国内向けモデルの生産を一時的に停止していたことで発生したサプライヤーの費用を補償する方針を明らかにした。

■クラリオン、夜間の認識対象拡大したカラーナイトビジョ ン開発（21日）

クラリオンは、夜間運転の安全性向上に車載用カラーナイトビジョンカメラを開発した。

■日産系部品メーカー4～9月期決算好調、通期は一転不 透明感（22日）

日産自動車を主要納入先とする上場サプライヤー7社の2017年4～9月期決算は、日産の世界販売が過去最高となり、各社の部品の販売も順調だったことや、為替水準の円安効果などから、日産車体を除く6社が増収増益となった。

■日立金属、EVやHVのパワーモジュール小型化へ高熱伝

導窒化ケイ素基板開発（22日）

日立金属は、電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）のパワーモジュールの小型化、コスト削減につながる「高熱伝導窒化ケイ素基板」を開発した。

■タカタ、事業売却で最終合意 KSSに1750億円で（24日）

欠陥エアバッグ問題で経営破たんしたタカタは、米国のキーセイフティーシステムズ（KSS）にタカタの相安定化硝酸アンモニウムを使用したエアバッグインフレーター関連事業を除くグループ全事業を15億8800万ドル（約1750億円）で売却することで最終合意した。

■ソニー、業界最高解像度のイメージセンサー商品化（24日）

ソニーは、先進運転支援システム（ADAS）用センシングカメラ向けに1/1.7型で業界最高解像度となる有効742万画素RCCCフィルタを採用した積層型CMOSイメージセンサー「IMX324」を商品化して11月からサンプル出荷する。

■ホンダ系部品メーカー、4～9月期決算（27日）

ホンダを主力納入先とする上場部品メーカー13社の2017年4～9月期業績は、12社が増収となった。ホンダの国内生産が順調だったことや中国での四輪車生産が増加し、各社とも部品の受注が好調だった。

12月……………

■NTNの敗訴確定、ベアリング独禁法違反

NTNは、自動車用ベアリング（軸受）などの販売に関して独占禁止法違反（不当な取引制限）に問われていた件で、最高裁判所が上告を棄却した。

■デンソー、世界初のHMI統合プラットフォーム（15日）

デンソーは、加ブラックベリーと共同で、自動車のコックピット内の情報をマネジメントするHMI（ヒューマンマシンインターフェイス）の統合プラットフォームを世界で初めて開発。

■トヨタ自動車、25年めどに「エンジンのみ車種」全廃（19日）

トヨタ自動車は、ハイブリッド車（HV）、電気自動車（EV）など電動車の商品化を加速し、25年までにエンジン車のみの車種を世界で全廃する。

■小糸製作所、3倍の青色発光強度を持つ新ナノコンボジッ ト蛍光体開発（20日）

小糸製作所は、東京工業大学、名古屋大学と共同で、従来の蛍光体と比べて2.7倍の青色発光強度を持つ新しいナノコンボジット蛍光体の開発に成功した。

海外

10月……………

11月……………

■ティラド、日米の独禁法違反訴訟で和解（11日）

ティラドは、日本と米国で自動車用ラジエーターなどの部品の取引で価格カルテルを結んでいたとして顧客の一部が損害賠償を求めていた訴訟で、和解することで原告側と合意したと発表した。和解金として約11億5800万円を支払う。

12月.....

■日本電産、独企業を買収 車載用電子制御ユニット開発 (2日)

日本電産は、車載用電子制御ユニット (ECU) を設計・開発するドイツ企業を買収した。

■長瀬産業、中国でEV向け部品 現地合併など4社で (4日)

長瀬産業は、中国のバッテリーメーカーの深セン市科達利實業 (KDL)、アテックスと中国で電気自動車 (EV) 向け部品を製造する合弁会社を広東省惠州市に新設する。

■ボッシュ、48ボルトバッテリー量産 HV用に来年末から (18日)

独ロバート・ボッシュは、48ボルトハイブリッド車用バッテリーの量産を2018年末に開始する。

■デンソー、スマートキーの米ベンチャー買収 (19日)

デンソーは、車両のスマートキーに関する特許技術を保有する米国のベンチャー企業のインフィニットキー (ミシガン州) を10月に買収した。

■独ショット、アルミ電解コンデンサ端子 ガラスとアルミで世界初の封止技術 (22日)

独・特殊ガラスメーカーのショットは、アルミ電解コンデンサの端子をガラスとアルミニウムで封止する世界初の封止技術「GTAS」を開発した。

市 場

10月.....

■世界生産6年連続増加、乗用8社4～9月国内外で好調 (31日)

乗用車メーカー8社が発表した2017年度上期 (4～9月) の

生産・販売・輸出実績によると、8社合計の世界生産台数は前年同期比4.0%増の1400万4473台となり、上期として6年連続で前年同期を上回った。

■世界販売5社が最高、乗用6社4～9月

乗用車メーカー6社 (ホンダと三菱自動車を除く) は、2017年度上期 (4～9月) の世界販売実績を発表。

11月.....

■4～9月の国内生産5.9%増 新型効果、輸出も後押し (1日)

日本自動車工業会 (自工会) がまとめた2017年度上期 (4～9月) の国内生産台数は、前年同期比5.9%増の467万1562台となり、3年ぶりに前年同期を上回った。

■HVの世界販売堅調、4～9月はトヨタ・ホンダともに増 (15日)

トヨタ自動車とホンダがハイブリッド車 (HV) の世界販売を堅調に伸ばしている。

12月.....

■部品メーカー128社 17年4～9月期、87社が営業増益 (2日)

国内の自動車部品メーカーの2017年4～9月期連結業績は日系自動車メーカーのアジアや中国での自動車生産が順調だったことなどから9割以上が増収となったことが日刊自動車新聞社の部品メーカー128社の決算まとめで明らかになった。

■上場部品メーカー78社、4～9月期 生産好調で増収増益 個別では2極化 (15日)

日本自動車部品工業会は、2017年度上半期の自動車部品工業の経営動向を発表した。

■国内タイヤ需要、18年はマイナス見込む 新車好調の反動減で (20日)

日本自動車タイヤ協会 (JATMA) が発表した2018年の自動車タイヤ国内需要見通しによると18年の国内需要は、17年見込みと比べて1%減の1億1900万7千本とマイナスを予測する。

記者の目

海外情勢に揺さぶられる娯年、次の一手は？

2018年の部品メーカーの動向は、昨年同様、海外情勢に大きく左右されそう。日欧経済連携協定 (EPA) の交渉妥結など明るい話題の一方で、米国での通商政策の変化や税制改正、中国での新車市場の鈍化がリスクとなっている。サプライヤー各社にも、柔軟な対応力と舵取りが求められている。

17年は米国トランプ政権の成立で、自動車業界も政策を注視しながらのスタートとなった。しかし、中国・アジアでの販売増や円安基調の為替相場などから各社の業績は堅調に推移。上場サプライヤーの半数近くが通期予想を上方修正した。

12月には日欧EPA交渉が妥結。日本とEUの間で関税や規制ルールが緩和する見通しだ。19年には発効する見通しで、来年の各社の業績を押し上げると見られる。

一方で18年は、これまで好調だった中国市場での新車販売の減速が懸念される。自動車取得税の税率が7.5%から元の10%に戻るためだ。日系自動車メーカーの中に

は利益の約2割を中国で稼ぐ企業もあり、生産・販売増を見越して現地化を加速してきたサプライヤーにも影響を及ぼしそうだ。

北米市場でも政策の動向に注目が集まる。1月には北米自由貿易協定 (NAFTA) の見直しに関する第6回会合が開催される。米国政策の方針が大筋でまとまるとの予想もあり、決定次第では自動車業界も対応を迫られる。

米国では法人税引き下げの議論も熱を帯びている。発効時期は19年との見方が有力だが、自動車メーカーが節税目的の一時的な生産調整や、設備投資の先送りに踏み切る可能性もある。供給先の動向次第だが、サプライヤー各社の業績にも変動リスクが潜む。

トランプ政権への“ご様子伺い”に終わった昨年に対し、18年は本格的な政策変化に見舞われそうな情勢だ。先読みが難しい中で、どのカードを切るのか。次の一手にも慎重な判断が求められている。(P)



このダイジェストは10月30日～12月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

「自動車の未来、ACES」

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

自動車の未来を表現するのにACESという略語が用いられます。自動運転(Autonomy)、相互通信(Connectivity)、電動化(Electrification)、シェアリング(Sharing)の頭文字を並べたものです。これら新しいテクノロジーについては個々に議論されるケースが多いのですが、実は自動車の未来はこの4つのテクノロジーが全て一緒になってできあがるものだと言えます。シェアリングというのはUberやLyftのような配車サービスでタクシーの代わりに過ぎないとか、電気自動車の普及拡大を欧州各国や中国、インドで自動車産業が推進するのは排ガス規制強化への対応のためだとか言われますが、ひとつずつの新技术について言えば確かにそういう一面もあるでしょう。しかし自動車という人間の生活をとても便利で豊かなものにする道具は21世紀に入って飛躍的に進歩した情報、通信技術を取り入れながら、とてつもないスピードで未来に向かって変化しているのです。

ACESの全ての要素を新しく身につけて、「より安全」で「より快適」になるクルマはこれまでその便利さ、快適さの恩恵にあずかることができなかったお年寄りや身体の不自由な人々も利用できてその生活をより豊かで楽しいものにする可能性を持っています。

もちろんクルマに乗ること、クルマを走らせるのが好きな人々にとっても、ACESは必ずしもクルマを退屈でつまらないただの移動手段にしてしまうとは限りません。クルマに乗ることが好きな人でも交通渋滞の中で長時間動けなくなってしまうことを楽しいと思う人はまずいないでしょ

う。そんなとき運転をクルマにまかせることができ、最短の時間で渋滞が解消されるように周囲の全てのクルマとインフラとコミュニケーションして交通の流れをコントロールしてくれるなら、ドライバーはその間好きなことをしていられます。そして渋滞から抜け出して高速で走ることができる場所に来たら、そこから走りを楽しめればよいわけです。

そんな未来のクルマが完成するのはずっと先のこともかもしれませんし、ひょっとしたらその時代はすぐに来るのかもしれませんが。音楽を聴くためのレコード盤とテープレコーダーがカセットテープを経てCDに変わり、携帯型デジタルプレイヤーが現れたと思ったら今ではスマートフォンがその役割を引き受けています。その進化の速度はどんどん速くなっているのですから、クルマが進化していくスピードもこれから一気に加速していくのでしょうか。そして今私たちが使っているスマートフォンが便利だけでなくとても優れたデザインで競争しているように、クルマもこれからそのスマートだけでなく素敵なデザインでも競争していただきたいものです。パワーやスピードを競っていたクルマの魅力には当然そのデザインや装備の便利さと使いやすさも大きく貢献してきたのです。新しい時代のクルマにはACESという競争する要素がさらに加わりました。さて、未来のクルマを作る競争に勝つのは誰でしょう。

<完>

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2017. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	596,706	111.8	5,473,287	97.5	738,821	103.4	6,212,108	98.2
普 通 車	370,271	119.3	3,324,361	106.7	462,942	109.4	3,787,303	107.0
小 型 四 輪 車	125,280	115.4	1,166,388	96.5	145,215	96.3	1,311,603	96.5
軽 四 輪 車	101,155	87.9	982,538	76.3	130,664	93.2	1,113,202	78.0
ト ラ ッ ク	89,950	98.7	803,069	90.0	105,703	85.4	908,772	89.5
バ ス	9,256	94.9	82,101	88.8	10,753	81.7	92,854	87.9
合 計	695,912	109.6	6,358,457	96.4	855,277	100.5	7,213,734	96.9

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2017. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	290,822	103.4	2,994,722	92.5	417,851	96.8	3,412,573	93.0
普 通 車	101,290	111.2	1,048,925	106.1	148,623	103.2	1,197,548	105.7
小 型 四 輪 車	94,879	109.5	966,188	97.2	127,426	102.4	1,093,614	97.8
軽 四 輪 車	94,653	91.4	979,609	78.0	141,802	86.8	1,121,411	79.0
ト ラ ッ ク	62,707	122.6	558,983	101.2	76,217	89.0	635,200	99.6
バ ス	1,778	181.4	11,690	144.6	1,120	83.6	12,810	136.0
合 計	355,307	106.5	3,565,395	93.8	495,188	95.5	4,060,583	94.0

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2017. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	323,646	116.5	2,684,589	107.3	376,796	107.6	3,061,385	107.3
普 通 車	299,801	115.5	2,512,650	107.8	357,462	108.7	2,870,112	107.9
小 型 四 輪 車	23,620	130.1	170,171	100.2	19,062	90.9	189,233	99.2
軽 四 輪 車	225	167.9	1,768	106.0	272	223.0	2,040	114.0
ト ラ ッ ク	26,690	75.7	237,835	76.7	37,014	78.3	274,849	77.0
バ ス	9,200	94.6	76,659	83.1	9,911	76.8	86,570	82.3
合 計	359,536	111.4	2,999,083	103.2	423,721	103.3	3,422,804	103.2

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2017. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総 括	自動車部品 41品目	508,994	106.7	4,469,899	107.8	592,601	100.6	5,062,500	106.9
	関連自動車部品 9品目	111,016	113.6	941,129	113.4	115,473	98.1	1,056,602	111.5
	内燃機関電装品 5品目	30,821	100.8	257,927	100.7	33,386	99.4	291,313	100.6
	二輪車部品 4品目	4,892	111.3	46,155	111.5	5,765	111.9	51,920	111.5
	合 計	655,723	107.6	5,715,110	108.4	747,225	100.3	6,462,335	107.4

			2017. 8月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2017. 9月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,446	118.5	29,516	112.9	3,994	110.4	33,510	112.6
	2	ピストンリング	3,399	107.0	29,773	108.5	4,178	111.7	33,951	108.9
	3	シリンダーライナ	1,378	102.5	13,160	103.5	1,729	96.4	14,889	102.6
	4	吸気弁・排気弁	3,468	104.0	29,609	109.7	3,785	104.9	33,394	109.2
	5	ガスケット	2,071	93.5	18,249	97.6	2,318	91.3	20,567	96.8
	6	燃料ポンプ	1,350	107.5	12,352	109.1	1,202	78.1	13,554	105.4
	7	気化器・燃料噴射装置	20,660	97.2	171,264	98.4	21,891	97.1	193,155	98.3
	8	空気清浄器	1,959	113.5	16,895	104.3	2,196	109.1	19,091	104.8
	9	油清浄器	1,736	99.9	14,228	99.6	1,789	96.6	16,017	99.3
	10	油ポンプ	2,264	105.3	20,383	105.7	2,602	98.7	22,985	104.9
	11	水ポンプ	1,909	108.3	16,842	104.5	2,240	103.2	19,082	104.4
	12	放熱器(ラジエータ)	9,309	74.3	110,347	98.9	11,085	74.2	121,432	95.9
	13	クラッチ装置	4,379	97.8	39,672	93.2	5,040	92.6	44,712	93.2
	14	自動変速装置	183,052	115.8	1,580,599	113.2	210,356	103.0	1,790,955	111.9
	15	ユニバーサルジョイント	3,193	113.2	27,268	112.6	3,710	113.9	30,978	112.8
	16	プロペラシャフト	4,346	105.3	37,178	103.4	4,985	94.1	42,163	102.2
	17	車輪	7,849	110.9	67,293	110.0	9,267	118.6	76,560	110.9
	18	かじ取りハンドル	3,594	127.5	30,172	129.6	4,374	120.5	34,546	128.4
	19	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	34,563	105.3	295,030	105.3	37,966	97.4	332,996	104.3
	20	ショックアブソーバ	9,548	87.7	80,520	87.0	10,683	87.0	91,203	87.0
	21	ブレーキ倍力装置	1,889	101.8	17,710	103.4	2,284	95.6	19,994	102.5
	22	ブレーキシリンダ	4,071	111.9	36,428	121.9	4,762	103.3	41,190	119.4
	23	ブレーキパイプ	2,686	109.4	22,755	106.5	3,117	110.5	25,872	107.0
	24	ブレーキシュー	2,443	99.3	21,141	96.3	2,693	94.6	23,834	96.1
	25	電子式ブレーキ制御装置	20,693	121.5	174,860	129.1	23,716	116.9	198,576	127.5
	26	燃料タンク(LPG用を除く)	6,400	107.1	56,281	102.1	9,574	130.0	65,855	105.4
	27	排気管・消音器	25,376	101.1	228,176	102.3	30,481	99.3	258,657	101.9
	28	窓わく	2,323	99.1	21,969	110.4	2,725	90.0	24,694	107.7
	29	ドアヒンジ・ドアハンドル・ロック	6,884	110.7	57,429	106.3	7,902	103.9	65,331	106.0
	30	窓ガラス開閉装置	3,958	113.8	35,337	109.5	4,404	99.1	39,741	108.2
	31	シート	64,171	97.9	585,389	118.6	79,051	94.8	664,440	115.1
	32	シートベルト	6,644	101.9	57,262	48.0	7,716	106.9	64,978	51.3
	33	エアバックモジュール	7,127	116.0	66,064	113.5	8,874	108.2	74,938	112.8
	34	スイッチ類	13,406	100.4	120,577	108.8	15,681	96.2	136,258	107.2
	35	計器類	9,058	93.9	83,412	92.8	11,830	104.0	95,242	94.1
	36	ワイパー	7,032	113.8	59,903	111.1	8,190	107.9	68,093	110.7
	37	警音器	1,641	127.6	13,497	118.8	1,800	113.1	15,297	118.1
	38	暖房装置	4,990	94.9	45,659	97.0	5,976	85.5	51,635	95.5
	39	軸受メタル	3,461	103.1	30,404	99.1	3,689	90.9	34,093	98.1
	40	プッシュ	2,756	111.9	22,750	106.0	3,140	107.8	25,890	106.2
	41	オイルシール	8,512	105.1	72,546	105.5	9,606	103.7	82,152	105.3
		合 計	508,994	106.7	4,469,899	107.8	592,601	100.6	5,062,500	106.9
関連自動車部品 (9品目)	1	かさね板ばね	2,042	100.9	16,992	101.8	2,287	107.1	19,279	102.4
	2	つるまきばね	1,666	112.3	14,435	108.8	1,904	109.7	16,339	108.9
	3	線ばね(自動車用)	4,705	105.2	40,079	105.9	4,243	82.2	44,322	103.1
	4	エアコンディショナ(乗用車用)	24,683	109.2	205,129	104.0	26,238	91.8	231,367	102.5
	5	白熱電球(自動車用)	607	81.6	6,070	100.6	729	83.6	6,799	98.4
	6	電気照明器具(自動車用)	40,433	121.7	344,336	120.9	47,573	114.9	391,909	120.1
	7	カーオーディオ	4,228	81.7	33,474	83.7	4,047	73.8	37,521	82.5
	8	カーナビゲーションシステム	25,218	90.0	221,437	94.7	28,452	88.0	249,889	93.9
	9	鉛蓄電池(自動車用)	7,434	108.7	67,172	105.2	8,915	105.7	76,087	105.3
		合 計	111,016	113.6	941,129	113.4	115,473	98.1	1,056,602	111.5

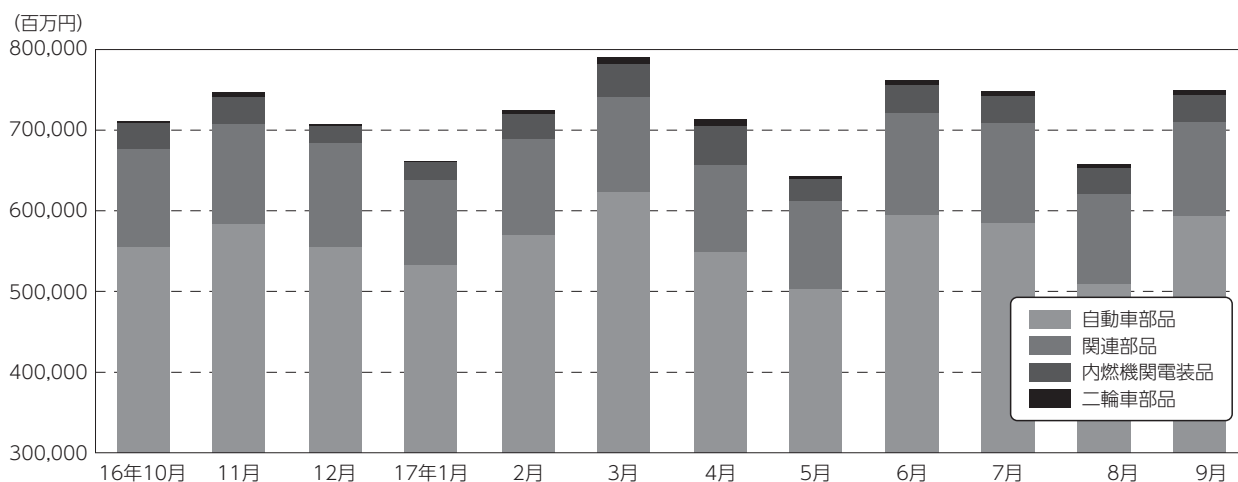
指標・統計

			2017. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2017. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電装品 (5品目)	1	充電発電機 (ダイナモ)	5,673	95.8	51,640	96.8	6,324	85.3	57,964	95.4
	2	始動電動機 (スタータ)	6,734	97.4	57,482	94.3	7,316	90.3	64,798	93.8
	3	配電器 (ディストリビュータ)	294	70.7	2,860	76.2	320	71.1	3,180	75.7
	4	点火線輪 (イグニッションコイル)	7,205	106.5	58,829	101.7	8,302	106.2	67,131	102.3
	5	点火栓 (プラグ)	10,915	103.4	87,116	108.6	11,124	113.5	98,240	109.1
		合 計	30,821	100.8	257,927	100.7	33,386	99.4	291,313	100.6
二輪自動車部品 (4品目)	1	気化器	718	103.6	6,506	104.9	779	97.0	7,285	104.0
	2	ショックアブソーバ	1,788	103.5	17,313	111.1	2,176	116.4	19,489	111.6
	3	計器類	658	98.1	6,544	95.0	849	102.5	7,393	95.8
	4	ブレーキ装置	1,728	132.4	15,792	124.0	1,961	118.8	17,753	123.4
		合 計	4,892	111.3	46,155	111.5	5,765	111.9	51,920	111.5

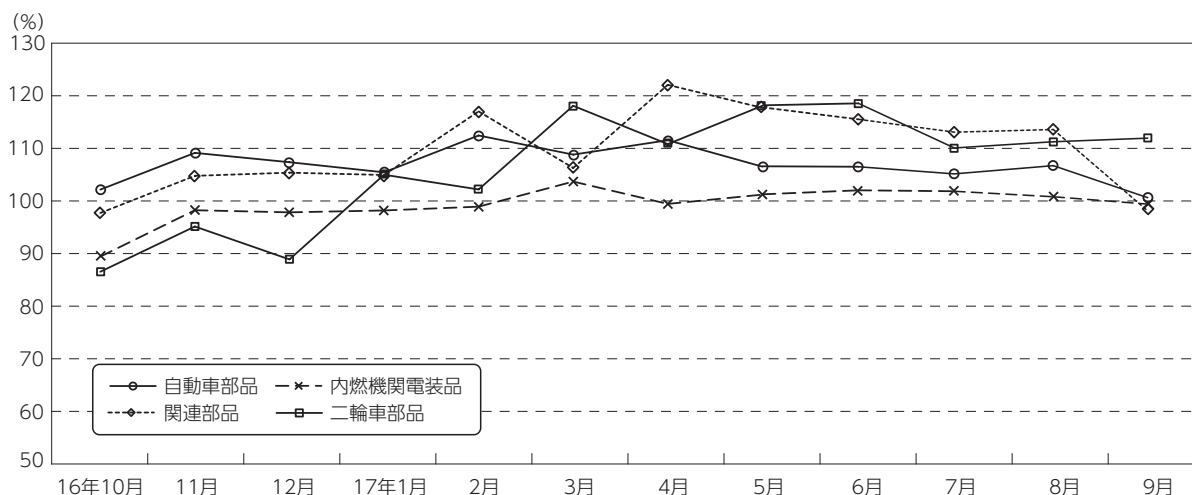
(注)

- ①平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「エアバッグモジュール」の定義が変更されました。
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。
接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。
- ②平成26年1月分より／経済産業省「生産動態統計」の見直しにより、「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。
- ③平成29年1月分より／品目の掲載順序・表記名を一部変更しました。

最近12ヶ月の自動車部品の生産推移



自動車部品生産の対前年同月比の状況



どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック!

新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、
業界動向をリアルタイムでお伝えします。

電子版でしか読めないコンテンツが満載。

気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。

速報
機能

ウェブ
限定記事

過去の記事もすぐに探せる!
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。

これでビジネスの幅が
広がります!

社内では新聞本紙
外出先では電子版
使い分けると便利だな!

あつ
これは
便利だ!

無料のお試し購読はこちらから

Q 日刊自動車新聞 電子版

検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp



その居心地の良い空間は、
トヨタ紡織のある空間です。



QUALITY OF TIME AND SPACE

すべてのモビリティに“上質な移動空間”を

モビリティに乗る時間を、ただ移動するためだけではなく、
もっと意味のある、価値あるものにしたい。

私たちトヨタ紡織は、
「世界中のお客様に最高のモビリティライフを提案し続ける会社」
として、世の中をリードする移動空間の
システムサプライヤーを目指しています。

 **トヨタ紡織**



走る喜びは、
RXと加速する。



NGK SPARK PLUG
Premium RX

「ルテニウム配合中心電極」と「白金突き出し+オーバル形状」外側電極採用。抜群の着火性を実現し、加速、燃費、耐汚損性、耐久性など、すべての性能を極めた次世代プレミアムプラグです。



NGK **NTK** **日本特殊陶業**
スパークプラグ ニューセラミック



製品やイベントの
旬な情報をお届け中!

NGK スパークプラグ facebook

検索





DENSO

Crafting the Core

より良い未来を次世代へ

Crafting
the Core